



学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業報告

活動期間：2024年1月1日～12月31日

CARE 東ティモール



目次

略語一覧	4
事業概要	5
要旨	6
主な活動実績.....	9
学習雑誌「ラファエック」	9
「ラファエック・ジャーナリスト」	11
戦略的パートナーシップ.....	12
モニタリング、評価、学習	12
オンライン・プラットフォームでの取組.....	12
ジェンダー平等推進	13
地方自治体の関与	13
地元リーダーとの関わり	14
政府主催イベントへの参加	15
アドボカシー	16
モニタリング、評価、学習.....	17
主なモニタリング結果	17
オンライン・プラットフォームでの取組.....	22
スポンサーシップ推進への取組	23
ラファエックスポンサー投資基金	25
パートナーシップとさまざまな関わり	26
コミュニティとの関わり	30
全国メディアとの関わり	31
ラファエックの変遷（ラファエック財団）	33
配布先学校地図.....	34
横断的課題	34
ジェンダー平等、児童保護を含む、性的嫌がらせ、搾取、虐待の防止	34
関連性	36

学習教材「ラファエック」を通した自立支援事業報告(2024年)

効率性	37
持続可能性.....	38
インパクト	39
戦略的・経営的課題.....	40
付録 B：受益者ストーリー	41
受益者ストーリー「ラファエック・キーク」	41
受益者ストーリー「ラファエック・プリマ」	42
受益者ストーリー「ラファエック・バ・マノリン」	43
受益者ストーリー「リベル・セマティク・バ・マノリン」	44
受益者ストーリー「ラファエック・コミュニティ」	46
付録 C：オンラインコンテンツ	47
ラファエックの Facebook と YouTube のリンク情報	47

略語一覧

CBPE：地域に根ざした幼稚園

CITL: CARE 東ティモール事務所

GBV：ジェンダーに基づく暴力

GEDSI：ジェンダー平等、障がい、社会的包摂

GoTL：東ティモール政府

LLM：本事業

MEL：モニタリング、評価、学習

MFAT：ニュージーランド外務貿易省

MoE：教育省

MoH：保健省

NGO：非政府組織

PSHEA：セクシャル・ハラスメント、搾取、虐待の防止

RAEOA：オエカス・アンベノ自治経済地域

RMT：結果測定テーブル

ユニセフ：国連国際児童緊急基金

事業概要

プロジェクト名	学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業
目標	子どもや識字率の低い成人の学習成果の向上、家族の幸せに貢献する
成果	<ol style="list-style-type: none">1) 男子、女子の学習成果の向上2) ジェンダー平等と家族の社会的・経済的な幸福度向上3) 事業の継続実施

無償資金提供契約

支援期間	2022年7月1日～2027年6月30日
支援総額	\$ 7,471,522.00
本報告対象活動期間	2024年1月1日～2024年12月31日

報告書作成

作成者	Marcelino Martins (ラファエック・プロジェクト・マネジャー) Shoaib Danish (ラファエック・ソーシャルエンタープライズ・ディレクター)
レビュー	Peter Goodfellow(CARE 東ティモール事務局長)
提出日	2025年2月3日

要旨

この年次報告書は、2024年1月1日から同年12月31日までの学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業の実施状況を包括的にまとめたものです。同事業はCARE東ティモール(CITL)によって管理、実施運営されており、東ティモールの教育セクター開発に焦点を当てています。成果測定表（RMT）に対する詳細な進捗状況については、付録Bを参照ください。

事業概要

2001年に東ティモールで開始された本事業は、教育の質の向上、リーダーシップ能力の強化、東ティモールの人々のコミュニティの社会的・経済的福祉の育成に取り組んできました。これはCITLと東ティモール政府、特に教育省との共同事業であり、ニュージーランド政府から外務貿易省(MFAT)を通じ、2022年から2027年までの期間に資金援助を受けています。この支援によって、CITLは教育省を支援しており、具体的には識字能力、計算能力、批判的思考力、ジェンダー平等、障がい者の社会的包摂、衛生、女子のリーダーシップ促進、女性のエンパワーメント、革新的な教育方法、農業・健康・栄養分野における家庭での実践を促進し、これらによって家庭における経済的・社会的福祉を向上させることとなります。

主要優先事項

学習雑誌「ラファエック」は、農村部や恵まれない地域のすべての学校、児童、コミュニティに必要不可欠な読み物であり、重要な補助学習教材であり続けています。教育省と共同で開発されたラファエックの雑誌の内容は、国のカリキュラムに沿っています。また、雑誌として印刷・配布されるだけでなく、ラファエックの公式ウェブサイト(www.lafaek.tl)でデジタル版が公開されています。

2024年、本事業では以下の教材を制作・配布しました：

- 「ラファエック・キーク」：未就学児と小学1、2年生向け（年3回）
- 「ラファエック・プリマ」：小学3年生から6年生向け（年3回）
- 「ラファエック・バ・マノリン」（教師用）：ガイダンスと教授法の提供（年3回）
- 「リベル・セマティク・バ・マノリン」：レッスンやセッションの計画・実施において教師をサポートするためのガイドブック（年1回）
- 「ラファエック・コミュニティ」：保護者向け。家庭での学習方法や農業、栄養などの各分野に特化した情報を提供（年3回）

ラファエック財団への移行

CITL は、ソーシャルエンタープライズモデルを用いて、本事業を独立した地元の財団へと移行することに着手しました。この戦略的な移行は、東ティモールの教育セクターにおける本事業の持続可能性と同国内の教育分野への長期的なインパクトを確保することを目的としています。現在、CITL は CARE オーストラリアと共に、全体的な移行計画、取締役会、リスク委員会の候補者、その他の関連手続きの調査および承認作業を行っています。CARE オーストラリアによる調査が完了し、承認が下り次第、CITL は東ティモール法務省に必要書類を提出し、審査と承認を得ます。すべての登録手続きは 2025 年 9 月までに完了し、その後「ラファエック財団」が正式に発足する予定です。

この移行を迅速に進め、かつ適切に監督するため、専門のタスクフォースが設立されました。このチームは CITL 経営陣の主要メンバーとラファエックのシニアチームで構成され、シームレスで効率的な移行プロセスを保証します。タスクフォースは、登録プロセスを監督し、ガバナンス体制を確立し、すべての法的および運営上の要件が満たされていることを確認する責任を負います。

この移行は、本事業にとって極めて重要な瞬間であり、ラファエック事業の持続可能性と長期的な効果を発揮させるための取組を反映させたものです。ラファエック財団は、東ティモールの子どもたちとコミュニティの教育成果を向上させるために、今後何年にもわたって重要な役割を果たし続けると確信しています。

本事業は、ジェンダーの平等、多様性、社会的包摂を優先しています。ジェンダーに基づく暴力、家庭内暴力、セクシュアル・ハラスメントなどの問題に積極的に取組み、その原則を活動の全段階に組み込んでいます。例えば、コンテンツの開発、配布、モニタリング、評価、コミュニティ参画、プロジェクト拡大活動、そしてラファエックのオンライン・プラットフォーム全体に顕著に表れています。

強固なアドボカシー戦略の一環として、本事業では、障がい者を含む若い学生や若者の積極的な参加を促してきました。例として、彼らは東ティモール政府の男女の主要なロールモデルたち、東ティモールの市民社会組織、影響力のある宗教指導者、外交団の著名人とのインタビューにおいて進行役を務めました。

これらのインタビューを通じて、学生や若い参加者は、リーダーシップ、意思決定、レジリエンスについて貴重な洞察を得ながら、ロールモデルの個人的な経験や職業上の経験を掘り下げる貴重な機会を与えられることとなりました。このようなインスピレーションと成功の物語を共有することにより、他の児童たちの自信と野心を育み、明るく成功した未来を思い描き、計画する力を与えることを目指しています。これらのインタビューの結果はラファエックの誌面にも掲載されます。さらに、この活動の影響力を最大化するため、インタビューの様子は全国に放送され、尊敬すべきロールモデルとなる人々の話が幅広い視聴者の共感を呼び、東ティモールの若者の間に向上心や意欲をもたらすこととなります。(インタビュー集の Facebook/Youtube リンクは、付属資料 C を参照)

さらに本事業は、主要なステークホルダーに影響を与えることを目的とした、重点的なアドボカシー＆パートナーシップ活動を展開しました。これには、教育省や保健省、その他関連部門との協力も含まれます：

- **教育の質の向上**：すべての人を受け入れ、利用しやすい質の高い教育教材の開発と普及。
- **女性と女子のためのリーダーシップ育成の機会の強化**：教育やコミュニティにおける女性のリーダーシップと代表性を促進するプラットフォームやイニシアチブを構築。
- **包括的ガバナンスの推進**：意思決定プロセスにおいて、青少年や子どもたちの声が確実に反映され、考慮されるようにする。

本事業は、ジェンダー戦略と行動計画の統合に成功し、長期的な教育の質向上と社会的エンパワーメントの目標に向け、大きな進展を示しています。パートナーシップを促進し、利害関係者の協力を促すことで、プロジェクトは前向きな変化を促し、東ティモール社会のすべてのメンバーの明るい未来への自信を鼓舞し続けています。

主な活動実績

学習雑誌「ラファエック」

本事業の中間評価結果（2021年）によれば、ラファエックは、児童や家庭で利用できる主要な、そして唯一のテトゥン語で書かれた読み物となっています。

アンケートで「子どものための読み物が何かしらある」と答えた家庭のうち 89%は、この「子どものための読み物」がラファエックであったことが判明しました。そして児童の総合的な読み書き能力は、ラファエックを読んだことがあるか、ラファエックに掲載されている言葉遊びや物語を思い出すことができるかということと、強い相関関係があることが分かっています。家庭がラファエックを利用する主な目的は、一般的な学習（69%）、読み方や数え方の学習（32%）、物語を読むため（22%）となっています。

本報告書は、2024年1月1日から12月31日までの活動を対象としていますが、今年度は以下の通り、ユニセフ（UNICEF）が運営する地域密着型の幼稚園を含む、公立・私立の幼稚園と小学校の合計1,769か所にラファエックを配布しました。

- 487 の幼稚園
- 1,180 の小学校
- 102 の地域密着型幼稚園（ユニセフがアローラ財団と提携して運営）

「ラファエック・キーク」は、就学前児童および1、2年生の児童らに合計366,144部が配されました。各号平均で、男子児童58,410人、女子児童54,989人（障がいのある男子児童22人、女子児童22人を含む）となっています。

「ラファエック・プリマ」は、3年生から6年生までの児童に毎号41万4,000部以上配布されました（年3回発行）。平均すると、各号が男子児童6万8,496人、女子児童6万3,963人（障がいのある男子児童49人と女子児童28人を含む）のもとに届きました。

このほか、16,215部が1,180校に届けられ、今後の参考教材として活用され、さらに全国の教育パートナーにも455部が届けられるなど、教育の質の向上に役立てられました。

教員向け「ラファエック・バ・マノリン」は、合計34,951部が、未就学児から6年生までの児童に携わる教育関係者に配布されました。配布対象者は、各号平均で、男性教師約4,162人、女性教師約5,167人（このうち障がいを持つ男性1名、女性3名の教師を含む）となります。

このように教師たちに直接配布されたほか、別途6,607部が学校に届けられ、教育現場における参考資料となりました。さらに、355部が全国のプロジェクト関連パートナーに提供され、教育的イニシアチブを支援し、強化するためのリソースとしてラファエックを活用しています。

この包括的な配布戦略により、教師は貴重なリソースを得ることができ、学校と教育パートナーは継続的にサポートが得られ、参考資料として利用することができます。

教員向け「ラファエック・バ・マノリン」の定期的な配布に加え、前回の初版から内容を充実させた「リベル・セマティク・バ・マノリン（2版）」も作成しました。これは、教師のセッション計画実施の効果を高めるための実践的な手引書となっています。

教師の能力強化の一環として、2024年5月から7月にかけて、9,104冊の「リベル・セマティク・バ・マノリン」を全国の未就学児の担当教師および小学校教員に配布し、9,104人の教師（男性4,097人、女性5,007人）が恩恵を受けました。これは、教師に貴重なリソースを提供することにより指導法を改善し、最終的には全国で児童の学習経験を向上させるという、本事業のコミットメントの強調に繋がりました。

また、今年度は非常に多くの「ラファエック・キーク」、「ラファエック・プリマ」、「ラファエック・バ・マノリン」のポスターを全国の公立・私立小学校に届けることができました。これらのポスターは、教師や児童がラファエックに掲載されている内容を簡単に探し出せるよう、参考文献やガイドの役割を果たすようデザインされています。

また、コミュニティへの参加を促進し、教育を支援するためのプロジェクトの継続的な取組として、東ティモール全土の家庭に317,442部の「ラファエック・コミュニティ」を配布しました。これにより、各家庭に貴重な情報やリソースが提供され、コミュニティの知識と参加を高めることができます。

本事業は家庭への配布に加え、関係政府機関、開発パートナー、および自治体や国レベルの市民社会組織にも合計8,274部を配布しました。これにより、主要な利害関係者は、ラファエックが配布した資料について十分な情報を入手し、最新の情報を得られるようになりました。

今年度本事業は、3つの地域（中央、西部、東部地域）において、14の対話型ワークショップを成功させました。

中央地域 2024年4月、アタウロ、コバリマ、マヌファヒ、アイナロ、アイレウ集落でワークショップが開催され、男性126人、女性153人が参加。

西部地域 2024年8月、ボボナロ、ディリ、エルメラ、リクイサ、オエクセ集落でワークショップが開催され、男性80人、女性178人が参加。

東部地域 2024年11月、バウカウ、ラウテム、マナトゥート、ヴィケケ集落ワークショップが開催され、男性69人、女性114人が参加。

これらのワークショップには、男性275人、女性445人の合計720人が参加しました。

この対話型ワークショップは、本事業の礎であり、コミュニティのメンバー、関連パートナー、政府関係者との間で、有意義な議論を行い、積極的な関与を促進するために欠かせないものです。様々背景を持つ参加者を集めることで、その場に情報、経験、洞察、知識を共有するためのプラットフォームが構築されます。この協力的な環境により、参加者はベストプラクティ

イスを共有し、共通の課題に取組み、それぞれのニーズに合わせた革新的な解決策を開発することができるようになります。

オープンな対話と相互学習を通じて、本事業はコミュニティの絆を強め、教育成果を向上させるために行動を起こす力を個人に与えます。このようなワークショップの機会を通じて、すべての地域住民の声が聞き入れられ考慮されるようになり、本事業がより包括的で人々のニーズに応えるものとなっています。

年度を通して、3版の制作、配付を行いました。

- 2024年第3版（2024年2月～5月）
- 2025年第1版（2024年6月～9月）
- 2025年第2版（2024年10月～2025年1月）

学習雑誌「ラファエック」のコンテンツの開発は厳格に実施されています。コンテンツ・マッピング、ブレーンストーミング・セッション、パイロット・テスト、主要関係者による包括的な最終レビューなどのコンテンツ開発プロセスを経ており、教育省が定めた国カリキュラム・ガイドラインに沿ったものとなっています。教育省の技術作業部会、MFATプログラム・コーディネーター、CARE/ラファエックチームによる厳密な審査が行われ、また印刷して学校に配布する前はこれらの関係者が最終的な承認を行い、最高の品質と教育基準の遵守を保証しています。

「ラファエック・ジャーナリスト」

また本事業では、「ラファエック・ジャーナリスト」というイベントを実施し、以下のような影響力のある指導者たちへのインタビューに成功しました。

- ヴィジリオ・ド・カルモ枢機卿：東ティモール社会におけるジェンダーに基づく暴力への対処と予防(2024年4月22日)
- セウ・ブリテス社会連帯副大臣：女性のリーダーシップと意思決定を促進するための政府政策についての議論(2024年9月19日)
- ヤシンタ・ルジナ・ダス・レグラス氏 (MOFEE (Movimento Feto Foin-Sa'e) ディレクター)：女性のリーダーシップの役割についての経験の共有(2024年4月30日)
- ヘレン・ジェーン・トゥンナ駐東ティモールニュージーランド大使：女性外交を通じて次世代にインスピレーションを与え、若者に対する外交官としてのキャリアの奨励(2024年10月4日)

- ディシア・サルメント・ベロ氏（気候変動活動家）：女性のリーダーシップと意思決定が、気候変動に対する回復力を育み、生物多様性保全の上でいかに重要な役割を果たしているかについての取材（2024年8月22日）

戦略的パートナーシップ

本事業では、この1年で開発パートナー、民間企業、国連機関、市民社会組織など、いくつかの主要なステークホルダーとの関わりを成功させました。こうした協力的な取組を通じて、本事業の持続性を支援するために約426,834.99米ドルを捻出し、本事業を独立したローカル財団として設立の道を開くことができました。

モニタリング、評価、学習

今年度は、児童、教師、保護者を対象に1,136件のインタビューを実施しました。これには、161校290世帯の男性478人、女性658人へのインタビューと、オエクセ・アンベノ特別自治区を含む全13市町村の74校での授業参観が含まれています。

さらに、モニタリング・評価・学習（MEL）チームは、幼稚園・小学校の児童や教師、また全国のコミュニティから33の受益者の成功談を聴取しました。

オンライン・プラットフォームでの取組

学習雑誌「ラファエック」の配布に加えて、インターネットにアクセスできる若者の間において、本事業はオンラインでの存在感も高めています。ラファエックのFacebookのページやYouTubeチャンネル、ウェブサイトを通じて、雇用の機会、国内の人気観光スポット、レシピなどの情報を提供し、若者の参加を呼び込む魅力的なコンテンツを発信しています。

2024年12月現在、当該Facebookページは**176,500人以上のフォロワー数**を誇り、同国においては、アメリカ大使館、オーストラリア大使館、東ティモール民主共和国大統領に次いで4番目にフォロワーの多いページとなっています。また、同ページは約518,451人にリーチされ、そのコンテンツは135,725人のフォロワーに見られています。

プロジェクト・マーケティング・コミュニケーション・チームは、女性のリーダーシップの促進や教師用ラファエックの重要性、「ラファエック・ジャーナリスト」の紹介などをテーマにした短編動画を開発しました。これらの動画は207人の新規登録者を獲得し、総数は600人となりました。報告期間中、ラファエックのYouTubeコンテンツは17,200件の視聴を獲得し、全世界で309,300件のインプレッションを獲得しました。

さらに、首都ディリやバウカウなどの首都圏在住の子どもの親や家族を対象とした、デジタル雑誌を発行する専用ウェブサイトも運営しています。これらのデジタル・プラットフォームを通じて、ラファエックをより広範囲に浸透させ、関心を高めることで次世代の子どもたちに良い効果を与えていくことを目指しています。

ジェンダー平等推進

2024年度、本事業は学習雑誌「ラファエック」のための包括的な「ジェンダー・コンテンツ・マッピング」を開発しました。これには、コミュニティメンバーをターゲットにした内容や、同誌のソーシャルメディア・オンライン・プラットフォーム用のコンテンツも含まれます。

年間を通してプロジェクトチームは、他のCAREプロジェクトやパートナーと協力し、ジェンダー平等・障がい者の権利・そして社会的包摶を包括的に推進するアプローチ(GEDSI)、セクシュアル・ハラスメント、搾取・虐待の防止(PSHEA)、子どもの保護などの主要テーマを、すべてのプロジェクト活動で推進しました。さらに、本事業はコミュニティとの対話型ワークショップを企画し、ラファエックのソーシャルメディア・プラットフォームを通じて貴重な情報を共有しました。

また、リーダーシップ・スキルを育成し、彼らが意見を述べる場を提供することで、障がいのある子ども含む子どもたちや若者のエンパワーメントに努めました。ラファエックに毎号掲載される政府職員やロールモデルとなる人たち、女性リーダー、外交官へのインタビューを通じて、東ティモールの若者たちがリーダーシップを追求し、国の発展への貢献に意欲を高めていくことを目指しました。

地方自治体の関与

自治体との協力のもと、本事業は全自治体で19の会議に積極的に参加しました。これらの会合には、様々な開発パートナーや省庁間の地方政府代表が集まり、プログラムの優先事項について話し合い、調和を図りました。これは、東ティモール政府の国家戦略開発計画(NSDP)との整合性を確保するためでした。私たちは事業の活動が、東ティモール国民のニーズを満たすものとなるよう、課題を明確にし、相互に支援していくことを確認しました。また、これらの会議の中で、各開発パート



2024年4月23日、ビケケ市当局との会談の出席者。

ナーは、事業の進捗状況、成果、新たな課題などの情報を提供するとともに、対象となるコミュニティのニーズを効果的に満たすために各自治体が必要とする支援についても説明しました。

地元リーダーとの関わり



2024年11月25日、ラファエックチームは、レミクシオの自治体、学校管理者、教師らを対象に、ラファエック・コンテンツ普及のためのワークショップを開催した。

本事業は今年度、地方行政局、特にアイレウ市レメキシオのアルマンド・メンドンカ氏との有意義な協力を通じて、非常に高い効果を上げました。メンドンカ行政官は、レメキシオの8つの村のリーダー、そして同行政区の小学校の教育調査官、校長/コーディネーター、教師らを集め、重要な会議の機会を設けました。この会議の機会を活用し、ラファエックチームは、参加者にラファエックのコンテンツを普及し活用させるためのワークショップを半日開催しました。

1. 村(Suco)のリーダーとの連携

学習雑誌「ラファエック」の多様かつ価値あるコンテンツについて、8つの村のリーダーたちに説明を行いました。これは男女平等、教育、健康、栄養、農業、小規模ビジネス開発、社会的創造性など、様々なトピックを網羅しているラファエックの重要性を理解してもらうためのものです。それによってリーダーたちが、コミュニティ内でこうした情報を効果的に広め、各家庭の知識と実践を向上させることを目的としています。

- 教育支援：**ラファエックのコンテンツを学校管理者（理事、コーディネーター、教師）と共有することにより、教育省や他の開発パートナーから学校と児童に提供される他の教育リソースと同様に、ラファエックを最大限に活用することを目指しています。この協力的アプローチにより児童の読み書き能力を向上させ、全体的な教育成果を高めます。
- コミュニティの関与：**コミュニティがそれぞれの村で継続的な支持を得るために、村のリーダーとの関わりが不可欠です。ラファエックが積極的に読まれ、活用される環境を促進することで、リーダーたちをラファエックのアンバサダーに任命することを目指しています。リーダーたちは、それぞれのコミュニティの住民たちに価値ある情報を広め、日々の生活に生かすことで、家庭や家族の幸福を高めるという重要な役割を果たします。なお、ラファエックの配布やコミュニティ参加型イベントの一部には、長期的な支援者であるMFATを代表するMFATプログラム・コーディネーター、CARE、ラファエックの管理チームも参加しました。

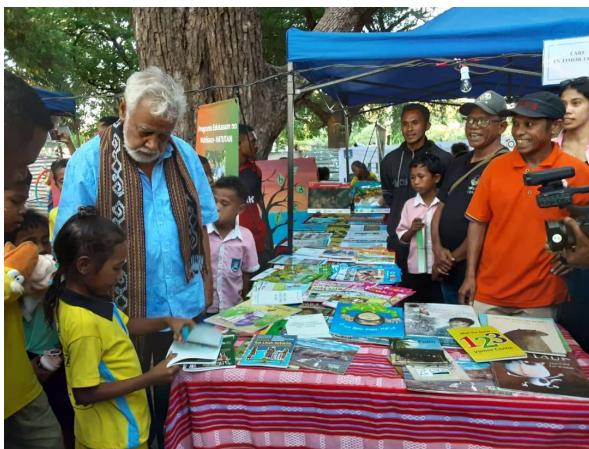
政府主催イベントへの参加

東ティモール政府のもと、行政は、開発パートナー、国連機関、国際/ローカル NGO 、市民社会組織などといった様々な国の主体となる組織との緊密な協力を進めています。こうした連携による取組の目的は、パートナーが国や自治体のブックフェアに積極的に参加することで、事業の活動を紹介し、また読み書き能力や学習方法を向上させるために児童やコミュニティと関わっていくことです。

今年度 2024 年 10 月 15 日から 19 日までアイナロのマウビッセで開催されたラビラウ展に参加しました。このイベントは東ティモール民主共和国大統領府が主催したもので、観光や、東ティモールの音楽、ダンス、楽器に焦点を当てた文化的な公演の促進を目的としていました。さらに、ブックフェアや様々な子ども向けのアクティビティも行われました。ラファエックブースも出店し、塗り絵や読み書きゲーム、歌、ラファエックの読み聞かせなどが行われ、学びを促し、興味を引く環境を作りました。



10月15~20日に、アイナロのマウビッセで開催された「ラビラウ・イベント」で、子ども向けにラファエックの読み聞かせや塗り絵のワークショップを行った。



11月27日のラエオアのイベントにて出店したラファエックブースにて、子どもの朗読の様子を見学するホセ・アレクサンドル・グスマオ首相。

さらに本事業は、2024 年 11 月 22 日から 28 日まで、ラエオアや、バウカウ県ヴェマッセにて開催されたブックフェア・イベントにも参加しました。これらの活動では、子どもたちとのラファエックの読み聞かせワークショップなどが行われました。このイベントは東ティモール政府が主催するもので、東ティモール独立 49 周年記念日の行事の一環として行われました。

アドボカシー

本事業は、東ティモール政府関係者、市民社会、障がい者団体との専門的なネットワーキングと関係を育み続けました。これらのアドボカシー活動は、以下のような主要パートナーとの様々なプロジェクト活動や重点分野の支援における継続的な協力関係を強化することを目的としています：

教育省：学習雑誌「ラファエック」(2024年3月号、2025年1月号)に掲載された大臣からの重要なメッセージをもらうため、大臣閣僚や教育省アドバイザーと協力しました。また、教育省の様々な部署と協力してコンテンツを改訂し、国のカリキュラム・ガイドラインや品質基準との整合性を確保しました。

保健省：ラファエックチームは、保健省の健康増進・栄養局と調整し、ラファエックに掲載する健康関連コンテンツを改訂し(2024年3月号、2025年1月号)、保健省のガイドラインやスポンサー契約との整合性を確保しました。

ジェンダーに基づく暴力(GBV)の啓発：GBVキャンペーン期間中(2024年11月25日～12月10日)、ラファエック(2024年3月号)および同誌のFacebookページにGBV防止コンテンツを掲載するため、主要指導者、地元専門家、団体に協力を依頼しました。

女性のリーダーシップ：女性リーダーや著名人と協力し、リーダーシップの経験を共有することで、次世代にインスピレーションを与えました。

障がい者の社会的包摶：ラファエックはRHTOと協力し、「ラファエック」(2024年3月号、2025年1月号)の障がい者に関するコンテンツを改訂し、多様性を尊重し、安全で安心なコンテンツづくりを徹底しました。

コミュニティの関与：ジェンダー平等、女性の経済的エンパワーメント、インクルージョン、GBV防止などの主要メッセージや重点分野を強調し、ラファエックの利点を提唱する効果的なプラットフォームとして対話型ワークショップを活用しました。

ヤング・ジャーナリスト&ディプロマット・イニシアチブ(ラファエック・ジャーナリスト)：「ラファエック」(2024年3月号、2025年1月号、2月号)のために、学生たちがロールモデルとなる人や政府関係者にインタビューするイベントを数多く企画し、若者のメディア参加とアドボカシー活動を促進しました。

モニタリング、評価、学習

プロジェクトのモニタリング・評価・学習（MEL）チームは、本事業を成功させ、効果的に実施する上で極めて重要な役割を果たしています。同チームは、定期的なモニタリング活動を実施し、学校や家庭におけるすべてのターゲット・グループへのラファエックの配布と受取について綿密に追跡調査しています。これにより、同誌が迅速かつ効率的に受益者に届くようになっています。

さらに、MEL チームは雑誌の利用状況を注意深くモニタリングし、児童、教師、保護者がラファエックの内容にどのように向き合っているかを評価しています。これらの活動で焦点となるのは、この学習雑誌で提供される情報が児童の読み書き能力と学習成果の向上にどのように貢献しているかを見極めるということです。児童の学習意欲と読解力の上達度を評価することで、配布された教育コンテンツの効果を測定することを目的としています。

MEL チームは、読解力の上達度を追跡するだけでなく、ラファエックが教育方法に与える影響も評価しています。これには、教師がラファエックの内容を授業計画や学級活動にどのように組み込んでいるかを観察することも含まれています。実用的なリソースや革新的な教授法を提供することで、この学習雑誌が教師の指導を強化できるようサポートし、最終的に児童の学習体験を豊かにします。

MEL チームは、学業上の成果だけでなく、知識、実践、態度といった行動の変化を追跡することにも重点を置いています。この包括的な評価の枠組みは、知識の定着率の向上、教授方法と学習方法におけるベストプラクティスの採用、態度面の良い変化などといった様々な指標を包含しています。このような微妙な変化を捉えることで、教育の仕組みやつながり全体に対する本事業の広範な影響について貴重な洞察を得ることができます。

このような熱心なモニタリングと評価の努力を通じて、MEL チームは、本事業が受益者のニーズに応え、東ティモールの識字率と学習能力の向上という目標を達成するために継続的に活動を改善していきます。

主なモニタリング結果

ラファエック・コミュニティ

今年度、ラファエックのモニタリングチームは、全国で 161 回もの現地への訪問を実施しました。この取組により、過去 1 年間に「ラファエック・コミュニティ」を受け取った、遠隔地に住む人々を含む多くの世帯から、男女それぞれの意見やフィードバック得ることができました。なお、回答者のうち、68.62% (199 人) が女性、21.38% (91 人) が男性でした。

健康・栄養習慣への影響: データによると、回答者の 82.07% が、「ラファエック・コミュニティ」は健康・栄養習慣を改善するうえで貴重な情報源であると認識していました。さらに、

71.72%が、手洗いやバランスのとれた食事の準備、家族計画、清潔な環境の維持などといった、ラファエックに掲載されている健康・栄養情報を実践していると回答しました。これは、コミュニティにおける健康的なライフスタイルの促進に、ラファエックが大きくプラスの影響を与えていることを示しています。

農業と生計手段の向上：回答者の 73.45%が、「ラファエック・コミュニティ」の効果として、農業と生計手段の改善を挙げました。さらに、61.72%が、植物の栽培方法やレシピの使用など、ラファエックに掲載された農業の専門知識を活用しています。これは、同誌が農業生産性と生活技術の向上に役立っていることを示しています。

ジェンダーの役割とエンパワーメント：回答者の 75%以上が、女性や女子が機械工や電気技師、溶接工、運転手といった、従来の枠にとらわれない役割を担うことができると考えており、性別役割分担について進歩的な見解を示しました。具体的には、機械を扱う職業が 78.90%、電気技師や溶接工が 77.56%、運転手が 76.34%という結果でした。これらの調査結果は、男女平等を促進し、女性に伝統的な性別の規範を破る力を与えるラファエックの影響力を浮き彫りにしています。

ジェンダーに基づく暴力の拒絶：データは、回答者の間でジェンダーに基づく暴力（GBV）を強く非難していることを示しています。男女ともに 80%以上の回答者が、無断で家を出る、子どもの世話をしない、性交渉を拒否するといった理由による女性への身体的暴力に反対しています。具体的には、男性回答者の 86.81%、女性回答者の 96.48%が、無断で家を出ることを理由に暴力が正当化されるべきではないと答えています。また、男性の 87.91%、女性の 96.98%が子どもの世話をしないことを理由にした暴力に反対しており、男性の 86.81%、女性の 97.49%が性交渉を拒否しても暴力は正当化されないと考えています。これらの調査結果は、GBV に対するコミュニティの強いスタンスと、この重大な問題への意識向上においてラファエックが役割を担っていることを表しています。

調査結果から、「ラファエック・コミュニティ」が健康や栄養、農作業、女性のエンパワーメント、あらゆるジェンダーに基づく暴力への反対という点において、大きなプラスの影響を与えていることが分かります。MEL チームが実施した大規模な現地視察とインタビューにより、コミュニティに対するラファエックの影響力について重要な気づきが与えられ、コミュニティに前向きな変化を促す効果が実証されました。

ラファエック・バ・マノリン

年度を通して、MEL チームは全国 161 校の幼稚園から小学校 1 年～6 年生を受け持つ**教師 183**人にインタビューを行いました。そのうち 42.08% (77 名) が男性、57.92% (106 名) が女性でした。

地域のリソースと学習補助教材の活用：データによると、インタビューに応じた教師の 86.34% が、教室と屋外の両方で地域のリソースや学習補助教材を利用していると回答しました。さら

に、83.06%の教師が児童の学習効果を高めるために実験を行っており、教育に対して主体的かつ柔軟な取組を実践しています。

児童の参加と教授法： インタビューの結果、81.97%の教師がディスカッションや問題解決型手法、ゲームなどを通して児童の参加を促していることが明らかになりました。一方で、91.80%の教師は、児童が十分に参加できる伝統的な講義方法を利用していると回答し、伝統的な講義形式と双方向的な授業形式を融合していることが分かりました。

クラス運営と子ども中心型学習： モニタリングの結果、教師は効果的なクラス運営と子ども中心型の学習方法を採用し、実践できることがわかりました。具体的には、85.02%の教師がゲームを用いてより活発な教室環境を作ること、86.34%の教師が教室のルールの作ること、83.06%の教師が実演を交えて学習をより魅力的なものにすること、91.80%の教師が褒めたり認めたりすることで子どもたちのやる気を維持させることの重要性を挙げています。

MEL チームのデータには、インタビューした教師たちの間で、双方向的で臨機応変な教授法の実践を取り入れることに肯定的な傾向があることが示されています。大半の教師が地域のリソースを活用したり実験を行ったりするなど様々な方法で子どもたちを惹きつけていることは、革新的で効果的な教育アプローチを推進する本事業の成功を反映しています。さらに、教師がクラス運営の手法や子ども中心型の学習アプローチを実践できていることは、教育全体の質を向上という点において本事業の波及効果ともいえる。

リベル・セマティク・バ・マノリン（教員用ガイドブック）

モニタリング・評価・学習（MEL）チームは、全国 161 の幼稚園と小学校（1～6 年生）を受け持つ 166 人の教師にインタビューを行いました。そのうち 40.36%（67 人）が男性、59.64%（99 人）が女性でした。回答者は、上記の「ラファエック・バ・マノリン」の取材に応じた教師と同じです。

配付と利用しやすさ： データによると、インタビューを受けた教員の 84.34%が「リベル・セマティク・バ・マノリン」を受け取ったと回答しました。さらに、71.69%の教師がインタビュー中に「リベル・セマティク・バ・マノリン」を提示できており、教員による教材の理解・活用度が高いことがうかがえます。

教育実践への影響： 84.34%の教師が、「リベル・セマティク・バ・マノリン」が授業を進めよう上で改善に役立ったと答えました。さらに、83.13%の教師がこれらのガイドを教室で積極的に使用していると回答しており、このことは、教材の採用率が高く、教授法に教材が組み込まれていることを示しています。

結論： MEL チームのデータから、「リベル・セマティク・バ・マノリン」が広く配布され、教師の間で好意的に受け入れられていることが分かります。多くの教師が「リベル・セマティク・バ・マノリン」を受け取り、保持し、活用していることは、教育実践を強化する上で有効であることを裏付けています。教師のフィードバックによると、「リベル・セマティク・バ・マノリ

ン」は教育成果を向上させ、教師の専門能力開発をサポートするうえで貴重なリソースのようです。

ラファエック・キーク

今年度、MEL チームは、全国の幼稚園と小学校（1～2 年生）の児童 340 人を対象に、聞き取り調査と授業見学を行いました。これらの児童のうち、49.12%（167 人）が男子、51.88%（173 人）が女子でした。

学習雑誌の受け取りと利用：98.24% の児童が「ラファエック・キーク」を受け取ったと答え、97.65% が 3 回すべて受け取ったと回答しました。97.35% の児童がラファエックを自宅に持ち帰り、99.71% の児童が授業でラファエックを使うことを楽しいと答えました。さらに、98.24% の児童が家庭や学校でラファエックを利用していると回答しました。

親の関与：データによると、91.47% の児童が保護者も一緒に雑誌を読んでいると答え、また 73.82% が家庭内で保護者がラファエックを読んでいるところを見たと答えました。

希望する進路：将来の夢について尋ねたところ、男子児童の多くは警察官や軍人になりたがっており、女子児童は看護師、医師、教師になりたがっていた。また、パイロット、エンジニア、画家、司祭や修道女になりたいという希望が男女ともに見られた。

MEL チームの調査結果は、「ラファエック・キーク」が児童たちに広く普及し、好意的に受け入れられていることを示しています。ラファエックの普及率、利用率、保護者の活用率の高さは、この学習雑誌が読み書き習慣の向上と学習意欲に影響を与えていていることを裏付けています。児童たちの語った進路の希望は、伝統的な性別の枠を超える幅広い関心と夢を映し出しています。

ラファエック・プリマ

MEL チームは、小学 3～6 年生 409 人にインタビューを行いました。内訳は、女子児童 219 人（53.5%）、男子児童 190 人（46.5%）でした。目的は、児童とそのコミュニティによる「ラファエック・プリマ」へのアクセスと利用状況を評価することです。

リーダーシップとエンパワーメント：インタビューした女子児童のうち 71.11% が「ラファエック・プリマ」によって、クラスのリーダーを務めたり、教師が出したトピックについてのディスカッションの場でグループリーダーを務めたりするなど、リーダーシップを発揮するようになったと回答しました。この結果により、若い女子児童のリーダーシップ・スキルと自信を育む上で、「ラファエック・プリマ」が有効あることを証明しています。

配布と利用：99.07% の児童が年 3 回発行のラファエックをすべて受け取ったことが確認され、配布システムが確立されていることを示しています。また、97.83% の児童が学校や家庭でラファエックを利用していると回答していることから、学習教材としての妥当性が示されています。

学校生活の楽しさへの影響：約 98.14% の児童が、ラファエックのおかげで学校が楽しくなったと答えています。この高い割合の回答には、「ラファエック・プリマ」が重要な学習補助教材で

あり、児童が教師から与えられた宿題や課題をこなすのに役立っていることを示唆しています。このデータから、若い女子のリーダーシップ・スキルを育み、児童にとって学校生活をより楽しいものにしているなど、大きなプラスの影響を児童に与えていることが分かります。また、「ラファエック・プリマ」の高い配布率と、学校のみならず家庭でも活用されているという事実は、教育ツールとしての重要性を裏付けています。

コミュニティとの関わり：インタビューした児童のうち 86.38%が、保護者が「ラファエック・コミュニティ」を読んでいるところ見た、と回答しています。この結果は、ラファエックが住民の意識向上キャンペーンにおいて不可欠であり、地域の知識向上や行動変容、日常生活の質の向上を支えています。保護者が「ラファエック・コミュニティ」を読んでいるということは、コミュニティ内でのラファエックの影響力の大きさを示しています。これは、人々の意識と知識を向上させ、ひいてはコミュニティの行動変容と全体的な幸福の向上に大きく貢献することとなります。

授業見学

2024 年度、MEL チームは 74 校で授業見学を実施しました。この目的は、教授法の有効性と、教師用ラファエックに掲載された内容との整合性を評価することです。授業見学の結果、対象となった教師の 78.24%が教師用ラファエックの内容に基づいたアプローチを利用していましたことが分かりました。これは、ラファエックに掲載されている推奨される授業実線や方法論に忠実であったことを示しています。

さらに、ほとんどの教師は児童の積極的な参加を促す方法を採用していました。例えば、児童のやる気を引き出す、教室での活動に付き添う、地元で手に入るリソースを活用する、児童全員が守らなければならない教室のルールを決める、などといったものでした。

教室のルールを決めたり、地元のリソースを活用したりといった積極的な参加手法が広く使われていることから、教師が魅力的で双方向的な学習環境づくりに力を入れていることが伺えます。このようなアプローチは、ラファエックにも示されており、前向きで包括的な教室の雰囲気づくりが可能となります。

教室での活動に児童を参加させ、体験を奨励している教師の割合が高いことは、体験型学習を重視していることを示しています。この手法は、児童の教科への理解度と定着を高める効果があります。

授業見学では、低い割合ではあるものの、7.95%の教師が、成績や態度の悪い児童を罰するために、怒鳴ったり、いじめたり、体罰などの懲罰的手段を用いていたことが分かりました。こうした手段をとる教師の数が大幅に減少しており、このような低い割合であったとしても、すべての児童が学習しやすい環境を確保するためには、このような行為に適正に対処する必要があります。こうした行動が、児童の幸福や学業成績に悪影響を及ぼす可能性があるからです。教師がこのような否定的な行動をなくし、活発な学習環境を育む肯定的な指導方法で対処できるよう、さらなる支援や啓発していくことが非常に重要となります。

オンライン・プラットフォームでの取組

2024年度中、本事業は特にフェイスブックページで大きな成長を遂げました。2024年12月末までに、ラファエックのFacebookのフォロワーは176,500人に達し、米国大使館、在東ティモールオーストラリア大使館、東ティモール民主共和国大統領に次いで東ティモールで4番目となりました。毎年フォロワーが増加し続けていることは、順調な成長と高いユーザーの関与を反映しています。この重要な達成は、ラファエックを東ティモールのソーシャルメディアおよびデジタル分野における重要な存在として確固たるものにしました。ラファエックのオンラインソーシャルプラットフォームは、雑誌が発信するコンテンツを主な情報源として機能しており、これにより、雇用機会、創造性、観光地、気候変動、女性のロールモデル、リーダーシップと意思決定など、プラットフォームが掲げるテーマとの一貫性と整合性が保たれています。これらのテーマは、若者たちが積極的に社会的対話に参加できるよう促すことを目的に、戦略的に選ばれています。

年度を通して、ラファエックのFacebookは、重要な情報を広め、意義あるパートナーシップを育むための重要なプラットフォームであることが証明されています。CITLと民間企業であるFKHグループの災害準備プロジェクト(DRP)は、このチャンネルを活用して、「エルニーニョ干ばつメッセージ」、パートナーシップ、様々なプロジェクト・ワークショップのまとめなど、重要なコンテンツを発表しました。

民間企業コンソーシアム(FHK)グループもまた、このプラットフォームを利用して、KONSセメント情報をより多くの視聴者に宣伝し、関心の高い視聴者が利用できるコンテンツの幅をさらに広げていきました。これらの協力的な取組により、広範な情報発信が実現し、ラファエックのスポンサー資金にも貢献しました。

これらの取組によって、ラファエックの今年度のスポンサー資金として合計**2,000ドル**の収入を得ることに成功しました。この経済的支援は、ラファエックFacebookページを通じた戦略的なコンテンツ普及についての具体的な効果を強調するものであり、パートナーとの継続的な関与と資金提供の可能性を示しています。

適切な社会問題を取り上げ、ポジティブなロールモデルを示すことで、ラファエックは視聴者に対し責任感を促しています。また、個人や職業の成長をサポートし、教育における若者の包括的なガバナンスを推進することで、若者を力づけるというラファエックの目標に沿っています。以下は、ラファエックのFacebookページで公開されたコンテンツの詳細で、特に高い反響とリーチを達成したコンテンツです

	投稿	エンゲージメント（反応）	リーチ
1	ヴィケケの観光地紹介	9,268	80,938
2	コバリマ観光地紹介	3,666	77,991
3	地元でとれた魚のグリル実演	4,530	76,700

	(イカン サボコ)		
4	マヌファヒ観光地紹介	10,524	75,856
5	バウカウ観光地紹介	5,721	71,988

フェイスブックのプラットフォームで積極的な存在感を維持することに加え、プロジェクトは、ラファエックのメッセージを広めるために、様々なテーマを取り上げた短編動画を YouTube 向けに制作しています。一例として、東ティモール政府関係者や市民社会組織の著名な女性リーダーへのインタビューを取り上げた「ジャーナリスト・キーク」があり、リーダーシップ、意思決定、ロールモデル、気候変動、その他の教育的メッセージなどの重要なトピックに焦点を当てています。

ラファエックの YouTube チャンネルは、207 人の登録者数があり、17,000 回以上の再生数と 209,300 回以上のインプレッション数を獲得しています。動画の主な目的は、視聴者が積極的に社会的および教育的な活動に参加し、自分たちのコミュニティに良い影響を与えるよう促し、インスピレーションを与えることがあります。

スポンサーシップ推進への取組

スポンサー獲得に向けた活動については、プロジェクトは長年のパートナーや新たに関わるパートナーとの関わりを着実に継続してきました。これらの協力関係は、開発パートナー、民間団体、市民社会組織、国連機関、東ティモール政府、首都ディリのインターナショナル・スクールなど、幅広いステークホルダーを網羅しています。これらのパートナーシップ構築の主な目的は、スポンサー収入を増加させることで、プロジェクトの持続可能性を強化することです。

私たちが提携している CARE 内部のプロジェクトには、HATUTAN II 事業、災害準備事業 II (DRP II)、新型コロナウィルスおよび保健システム強化支援プロジェクト(COHSIS)などがあります。また、東ティモールの開発パートナーとしては、マーシーコープス東ティモール、カトリック救済サービス (CRS)、アジア財団、家族福祉協会 (FWA) などがあります。

さらに、民間企業、特に FHK グループとセント・アントニオ・インターナショナル・スクールとの提携は、本事業が多様で協力的なネットワークづくりへの取組を強調するものです。これらの戦略的提携を通じて、ラファエックのスポンサーシップ活動は、プロジェクトの長期的な持続可能性を確保し、東ティモール全域の学校やコミュニティに対する社会的な影響力を發揮するために必要な財政資源の調達を目指しています。

このプロジェクトは、今年を通して 426,834.99 米ドルという特筆すべき総収入を達成しましたが、主な収入源は 2 つあります。第一に、ラファエックの Facebook のプラットフォームでの戦略的なコンテンツ発信により 2,000 ドルの収入を得ました。第二に、「ラファエック・コミュニティ」を中心とした雑誌の全 3 版にわたり掲載したコンテンツにより、424,834.99 米ドルもの大幅な収入が得られました。

この年、新たなスポンサーの可能性を模索するため様々な団体との話し合いが行われました。しかし、財源の制約から予想通りには進展しませんでした。とはいえ、次年度である2025年度には、実りある連携の大きな可能性がなお残されています。ラファエック事業は、このような関係構築に引き続き尽力し、これらの組織との将来的なパートナーシップを追求し強化していきます。

以下に、本事業が2024年度におけるスポンサー収入創出活動の一環として連携した、既存および新規の開発パートナーの一覧を示します。

No.	パートナー組織名	提供内容	金額
1	HATUTAN（米国農務省事業）	4種類全てのラファエックの2024年第1～3号において、異なるトピックを扱ったコンテンツの掲載	\$158,800.00
2	COHSIS	4種類全てのラファエックの2024年第1～3号において、健康に関するメッセージに焦点を当てたコンテンツの掲載	\$42,000.00
3	DRP	「ラファエック・コミュニティ」とFacebookページへのthe El Niñoのメッセージの掲載	\$18,500.00
4	アジア財団（TAF）	「ラファエック・コミュニティ」への地域警察に関するコンテンツの掲載、保健センターや保健ポストへの「Let's Read Program」の配布	\$24,871.20
5	マーシーコープス	「ラファエック・コミュニティ」へのコンテンツ掲載と学校への配布	\$157,099.79
6	CRS	「ラファエック・コミュニティ」へのコンテンツ掲載とコミュニティへの配布	\$23,500.00
7	FWA	メトロスクールに通う児童とその家族へのGBV防止研修実施	\$300.00
8	Rede Feto	「ラファエック・コミュニティ」へのジェンダー平等に関するコンテンツの掲載	\$1,000.00
9	FHK グループ	ラファエックのFacebookページでのKonsセメントのプロモーション	\$500.00

学習教材「ラファエック」を通した自立支援事業報告(2024年)

10	セント・アントニオ・インターナショナルスクール	「ラファエック・キーク」の購入	\$264.00
合計			\$426,834.99

ラファエックスポンサー投資基金

今年度、プロジェクト管理チームは、卓越した慎重さと先見性をもってスポンサー資金を管理し、高く評価されるべき努力を示しました。130万米ドルという多額の資金を、東ティモール国立商業銀行（BNCTL）の長期預金口座に毎年戦略的に投資してきました。この投資は、追加的な利子収入を得るためのものであり、これは本事業が独立したラファエック財団に移行する際に財政的な存続可能性と持続可能性を支える上で極めて重要なものです。

パートナーシップとさまざまな関わり

この1年を通じて、東ティモール政府の主要な代表者たちとの戦略的パートナーシップを積極的に構築し、教育省、保健省、社会連帯省、外務省を含む省庁間の協力関係を築いてきました。さらに、私たちの取組は、副首相の下にある発育阻害対策ユニット（UNMICS）、首相の下にある海洋境界事務所および平等担当国務長官室といった重要な部門にまで広がっています。

政府との連携のみにとどまらず、市民社会組織とも強固な協力関係を築いてきました。ザナン・グスマオ図書室（XGRR）と提携し、また気候変動活動家と関わり、東ティモール障害者協会（RHTO）とも協力しました。さらに、世界食糧計画（WFP）やユニセフを含め様々な国連機関やその他関連教育パートナーとも協力しています。

これらのパートナーシップ構築の主な目的は、主要なステークスホルダーに良い影響を与えることであり、総合的な目的は、学習成果を高め、経済的・社会的な観点から家族の全体的な幸福を向上させることです。このような多面的な協力関係を通じて、ラファエック事業は、私たちが対象とするコミュニティで、持続可能でインパクトある成長のため、ゆるぎない決意を持っています。

本事業は、国や自治体、学校レベルで教育省との専門的な関わりを強く保持してきました。今年度は、教員を含む教育省のワーキンググループと MFAT プログラム・コーディネーターと協力し、2024 年版の第 2 版および第 3 版、2025 年版の第 1 版の雑誌の教育内容を綿密に検討し、承認しました。



ラファエックの内容を検討するワーキンググループとラファエック制作チーム。



MoE、MFAT プログラム・コーディネーター、CARE チームを含むラファエック外部諮問作業部会が、ラファエックの内容の入念な見直しを行った。

この共同作業は 2024 年を通じて 3 回行われ、「リベル・セマティク・バ・マノリン」を含むコンテンツは、文部科学省のカリキュラムと教員養成専門家による厳しい審査を受けました。この承認プロセスは、印刷されて学校に配布される前に、コンテンツが同省の定める最高基準を満たしてすることを確認するために厳正に実施されました。

さらに、2024 年の「ラファエック・バ・マノリン」の全 3 版にわたって、教育大臣は常に重要な助言と指導を行ってきました。教育大臣のメッセージは、ラファエックやその他

の開発パートナーから提供された不可欠な学習リソースを、教師用ラファエックで活用するよ

学習教材「ラファエック」を通した自立支援事業報告(2024年)

う後押しする上で極めて重要でした。これらの学習リソースは、児童の読解力、計算力、そして全体的な学習能力の向上に欠かせない役割を担っています。大臣は、児童と教師がこれらの教材を最大限に活用するよう強く促し、学問的な優秀さと個人的成長を促進する環境づくりを推進しています。

「ラファエック・コミュニティ」の2024年第2版と第3版、2025年の第1版は、MFATプログラム・コーディネーターとラファエックチームによる徹底的かつ綿密なレビューを受けました。この見直しにより、品質と関連性において非常に高い基準を満たしており、東ティモールのCAREの長期プログラムや、2024年から2028年の東ティモール第9回憲法政府の優先事項に沿った内容となっています。このような地道な努力は、東ティモールの地域社会のニーズに合った、効果的な教育リソースを提供するといった事業の揺るぎないコミットメントを表しています。

今年度、バウカウのヴェニラレ行政区にある遠隔地の学校（EBF1.2 バドモリ）への訪問を実施するため、調整を重ねてきました。この訪問には、ドゥルセ・ソアレス・デ・ジーザス教育大臣、教育省の高官、在東ティモールニュージーランド大使、バウカウ市の主要なリーダー、CARE/ラファエックチームなど、錚々たるメンバーが参加しました。



10月7日、教育大臣やニュージーランド大使、教育省職員、ラファエックチームらがバウカウのヴェニラレ行政区にある小学校を

訪問の主な目的は、児童と教師が学習雑誌「ラファエック」2024年第3版の内容をどのように受け取り、どのように取り組んでいるか自分たちの目で観察することであり、特に児童の読解力と計算力がどのように向上しているかに焦点を当てたものでした。今回の訪問では、教育省とニュージーランド大使館が、教育省を含む様々な教育パートナーによって提供された学習教材の全体的な質と効果について詳細に評価する貴重な機会となりました。さらに、児童がラファエックを持ち帰り、学習成果を向上させることができるように、学校がこれらの教材をどのように効果的に活用しているかを評価することもできました。



10月7日、教育大臣が小学校を訪問し、児童たちとラファエックの読書活動を行った。

今回の訪問でドゥルセ・ソアレス・デ・ジーザス教育大臣が共有した重要な洞察のひとつに、児童の読解力の顕著な向上が挙げられます。訪問の間、大臣は、2年生と3年生の児童と広範囲で参加型の読書活動を行い、児童の読書能力を入念に評価し、見直しました。この積極的かつ実践的なアプローチは、児童の現在の読書レ

ベルに関して貴重なデータを提供し、児童たちのやる気に火をつけました。その結果、児童たちは率先してラファエックをはじめとする様々な読書教材を活用し、読書力を高めようとした。このような自発的な努力は、大臣と大使が事業に関わることの効果を裏付け、児童と保護者の識字レベルの向上に大きく貢献しています。

さらに、これらの訪問によって、教育省は学校のインフラを包括的に見直すことができ、改善すべき点を特定し、教育環境を向上させるために必要な措置を講じることができました。

また、小学生の全人教育や自信をつけさせるためにユニークな取組を行いました。4人の男女児童が「ラファエック・キーク・ジャーナリスト」として選ばれ、市民団体や政府機関の著名人にインタビューするという素晴らしい機会を得たのでした。

児童たちはインタビューに向けて、総合的なトレーニングや説明を受け、魅力的なインタビューにするために必要なスキルを身につけました。この取組は、児童たちに自信をつけさせ、将来の夢を思い描き、明確な目標を設定させることを目的としています。

選ばれた児童のうち、EBF1.2 # 5 コモロ小学校のエピファニア・ダ・コ斯塔さんと EBF1.2 マルセロ 2 コモロ小学校のロビーニョ・ソアレス・フェルナンデスさんは、著名な気候変動活動家であるディリシア・サルメント・ベロ氏にインタビューする機会を得ました。彼らの貴重なインタビューの様子は、「ラファエック・プリマ」の2025年第1版に掲載されました。

同様に、サクロヘス小学校のティルナミラント・ソレ・サビオさんと EBF1.2 フディ・ララン小学校のメッシビア・ロナ・バッサ・ソアレスさんは、MOFFE の尊敬すべきディレクターであるヤシンタ・ルヒナ氏との魅力的なインタビューを行いました。女性のリーダーシップと意思決定の役割について、ルヒナ氏の経験や見解を掘り下げました。このインタビューの結果は、「ラファエック・プリマ」の2024年第3版号に掲載されました。こうした取組により、児童たちはコミュニケーション能力と自信を高めることができました。また、彼らは自分たちの未来の夢を追い求めるようにインスピレーションを与えてくれる影響力のあるロールモデルに触ることができました。

若者のエンパワーメントと自信の育成という継続的な取組に基づいて、本事業では「ユース・ジャーナリスト・イニシアチブ」と同様のアプローチを採用しました。4人の若者がラファエック・ユース・ジャーナリストとして招かれ、著名なゲストへのインタビューを担当しました。その中でも特に注目すべきは、東ティモールの高名な枢機卿、ドム・ビルジリオ・ド・カルモ・ダ・シルヴァへのインタビューでした。この議論は、東ティモールにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)の防止に男性や少年をどのように参加させるかに焦点を当てていました。このインタビューでの洞察は、「ラファエック・コミュニティ」の2024年第3版で大きく取り上げられました。このインタビューは、ザナナ・グスマオ読書室研究所のバジリオ・デ・アラウージョ氏と、障がい者を支援する著名な地元団体であるRHTOのヴェロニカ・ヌネス氏によって行われました。

さらに、ザナナ・グスマオ読書室研究所のエスマラルダ・フェルナンデス氏とRHTAのコンスタンティーノ・マルティンス氏は、社会連帯副大臣のセウ・ブリテス女史にインタビューする機

会を得ました。インタビューでは、政府レベルで女性のリーダーシップと意思決定を促進するための政策の実施について深く話し合われました。

今年度、本事業では、外交官ジャーナリスト・イニシアチブの拡大を目指しました。この拡大は、東ティモールで活動する外交団や国連機関の関係者を対象に、人脈を築き、協力の機会を探るものです。この目的のため、2人の若い男女がラファエック外交官ジャーナリストとして招かれた。彼らは、ヘレン・ジェーン・トゥンナ駐東ティモールニュージーランド大使に魅力的なインタビューを行いました。このインタビューは、外交における女性の役割に焦点を当て、東ティモールの若者が将来外交官としてのキャリアを志すきっかけとなることを目指しました。このような取組を通じてプロジェクトは若者の自信とスキルを強化し、彼らの将来の野心を刺激し導くことのできる影響力のある人物と結びつけることを目指しています。

以下の表は、ラファエック・ジャーナリストが行いましたインタビューの包括的なリストです。

	対象者	役割	目的	掲載号
1	ヤシンタ・ルジナ・ダス・レグラス氏	MOFFE ディレクター	リーダーシップや意思決定の役割を担う女性について、自身の経験や見解	ラファエック・プリマ (2024年第3版)
2	ヴィジリオ・ド・カルモ枢機卿	枢機卿	東ティモールにおけるジェンダーに基づく暴力(GBV)の防止に男性と少年を参加させるための視点	ラファエック・コミュニティ (2024年第3版)
3	ディシア・サルメント・ベロ氏	気候変動活動家	気候変動へのレジリエンスを高め、生物多様性を守るうえで重要な役割を果たす女性のリーダーシップと意思決定への参画	ラファエック・プリマ (2025年第1版)
4	セウ・ブリテス氏	社会連帯副大臣	政府レベルでの女性のリーダーシップと意思決定の促進に向けた政府政策の実施	ラファエック・コミュニティ (2025年第1版)
5	ヘレン・ジェーン・トゥナ氏	NZ 大使	次世代を鼓舞し、将来外交官としてのキャリアを目指す動機付けのため、外交における女性としての経験や視点の共有	

コミュニティとの関わり

今年度、このプロジェクトは、既存の13の自治体と並んで最近新しい自治体として設立されたアタウロを含むすべての自治体で、様々な村にわたる14の対話型ワークショップを成功裏に実施しました。これらの対話には、全国で男性275人、女性445人、合計720人が参加しました。



8月1日、ボボナロのカイラクにある村・ミリゴのコミュニティ参加者は、ワークショップでピーナッツからマーマレードを作った。

プロジェクトチームは、村の指導者、学校当局、教師と協力して、全国メディア、新聞、テレビなどの情報源へのアクセスが限られている遠隔地・村を特定しました。これらの村のコミュニティは、小学校の第2サイクルおよび第3サイクルの2年生から9年生に在籍する子どもたちを通じて「ラファエック・コミュニティ」を受け取りました。

これらの対話型ワークショップを通じて、プロジェクトは2024年第1版、第2版、第3版のコミュニティ・マガジンに掲載された情報を広めました。このワークショップでは、参加者が質問をしたり、雑誌から得た経験や知識を共有したり、今後の雑誌への提言をすることができました。参加者は、自身の実践事例を積極的に共有し、その経験を参加者同士で交換し、日常生活の参考として活用しました。この間、コミュニティは、雑誌に掲載された特定の内容を直接実践するユニークな機会を与えられました。例えば、「落花生からマーマレードを作る方法」や、栄養を補うために子供たちが安全に食べられる「魚のアボン」の加工方法などの技術を学び、実践しました。

この参加型のアプローチは、知識の共有のみならず、参加者が家庭生活で活用し、教育費や生活費の足しにする副収入を得るために手段としてのスキルを身につける機会となりました。

今年度、数社の開発パートナーが積極的にスポンサーとなり、学校や地域の情報誌に貴重なコンテンツを提供してくれました。これらの寄稿は、教育、健康、栄養、農業など、重要なトピックを幅広く網羅しています。この協力的な努力は、コミュニティに提供される情報の豊かさと妥当性を高めることに役立っています。

このイニシアチブの効率をさらに最大化するため、プロジェクトは関係省庁やパートナー組織から技術



4月26日、アタウロの村・マカダディで行われたワークショップで、参加者たちは子どもたちが安全に食べられる「魚のアボン」を作った。

代表者を招き、コミュニティとの関わりを持たせています。これらの専門家は、それぞれの分野に関する特定のトピックについて知識を共有しています。このアプローチにより、コミュニティのメンバーは、正確で最新の情報を情報源から直接受け取ることができるようにしました。

この戦略の有効性は、コミュニティと技術専門家との直接的な交流にあります。コミュニティの参加型セッションでは、これらの代表者が技術的な質問に対応し、詳細かつ実用的な解決策を提供します。これによって内容の理解が深まり、コミュニティがその知識を日常生活で活用できるようになります。

さらに、これらのコミュニティ参加者は、コミュニティ参加セッションで得られた情報を、参加できなかった人々に広めるという重要な役割を果たしました。プロジェクトは四半期ごとに、以下のクラスターに分散された最大5つの自治体でコミュニティ対話を実施しています。

中央地域 2024年4月、アタウロ、コバリマ、マヌファヒ、アイナロ、アイレウでセッションが行われ、男性126人、女性153人が参加。

西部地域 2024年8月、ボボナロ、ディリ、エルメラ、リクイサ、オエクセで対話が行われ、男性80人、女性178人が参加。

東部地域 2024年11月、バウカウ、ラウテム、マナトゥート、ヴィケケでセッションが開催され、男性69人、女性114人が参加。

全国メディアとの関わり

ラファエック・プロジェクトは1年を通して、以下のような東ティモール政府内の影響力のある人物に数多くのインタビューを行いました：

- セウ・ブリテス氏：社会連帯副大臣
- ヤシンタ・ルジナ・ダス・レグラス氏：Movimento Feto Foin-Sa'e Timor-Leste ディレクター
- ドン・ビルジリオ・ド・カルモ・ダ・シルヴァ氏：東ティモールの高名な枢機卿
- ディシア・サルメント・ベロ氏：著名な気候変動活動家、
- ヘレン・ジェーン・トゥナシ氏：駐東ティモールニュージーランド大使
- アルマンド・メンドンカ氏：レミキオ行政長官
- ドゥルセ・ソアレス・デ・ジェスス：教育大臣
- マリア・フェルナンダ・レイ：国会議長

グルポ・メディア・ナシオナル (GMN) テレビ局のナショナル・メディアは、年間を通じてこれらのイベントを報道する主要メディアでした。

このインタビューの主な目的は、ラファエック・プロジェクトの知名度とブランド力を高め、東ティモールの教育開発セクターへの長期的な支援を確保することでした。このイニシアチブは、東ティモール全土のコミュニティ福祉を向上させるというプロジェクトのコミットメントに沿ったものです。これらのインタビュー結果は、主に「ラファエック・コミュニティ」と「ラファエック・プリマ」に掲載されました。さらに、若者たちが積極的にラファエック・プロジェクトに貢献することを奨励するため、ラファエックの Facebook ページを通じて内容を広めました。

ニュージーランド海外ボランティアサービス（VSA）との関わり

今年度、本事業は、東ティモールのニュージーランド・サービス・アブロード（VSA）と協力し、ラファエック制作チームのスキル向上のため、教育アドバイザーを積極的に採用してきましたが、この度、シェリル・タイラー氏を教育アドバイザーとして迎えることができました。タイラー氏は、ラファエック制作チームや出版マネージャーと密接に協力し、イラストレーション、レイアウトデザイン、執筆チームへの技術的なサポートを提供しています。さらに、オンライン販売サービスのグローバルな市場機会を特定し、プロジェクトチームが検討・開発できるよう革新的なアイデアを提示するなど、新商品開発の探求においても重要な役割を果たしています。

このプロジェクトは、VSA のパートナーシップから多大な恩恵を受けており、そのおかげで私たちのサービスの質が大幅に向かっています。タイラー氏の VSA ネットワークを通じて、事業開発の専門家であるマーク氏など他の VSA 同僚を巻き込み、ラファエックのシニアチームに社会的企業セクターに関する半日ワークショップを無償で提供くださいました。さらに、VSA のボランティアで、ユニセフとアローラ財団での経験があるマギー氏は、両組織のために、関連する補助学習リソースを積極的に開発しました。また、制作、出版、マーケティング、コミュニケーションの各チームを対象に、東ティモール国外の読者を対象としたオンライン教材の作成に焦点を当てた 2 日間のワークショップを指導しました。タイラー氏のプロジェクトへの貢献を高く評価するとともに、2025 年 7 月から 2026 年 7 月までの新たな契約期間において、東ティモール VSA マネージャーと協力できることを楽しみにしています。

ラファエックの変遷（ラファエック財団）

CARE 東ティモールのチームは、ラファエック・プロジェクトを独立した地元の財団法人に移行するための並々ならぬ努力に着手しました。この移行プロセスは数年前に開始され、CARE、MFAT、東ティモール政府が財団を設立するために不可欠な要件をすべて満たすように設計されています。

この変革の過程で達成された重要なマイルストーンの中には、財団の将来の理事会および監査・リスク委員会の慎重な選定を含む、強固なガバナンス体制の構築が含まれます。財団の法律や規約、決議案の作成という重要な作業も完了しました。これらの基礎となる要素はすべて完成し、東ティモールの CARE によって正式に承認され、その後 CARE オーストラリアに提出され、彼らの審査と適正評価を受けています。

プロジェクトチームは、進行中の移行をサポートするため、ラファエックの事業計画を改訂しました。この改訂で特に強調されたのは財務分析と予測で、プロジェクトの財務健全性を包括的に概観し、今後 10 年間（2024 年～2034 年）の詳細な収入創出予測を示しています。財務分析は、ニュージーランド外務貿易省（MFAT）と東ティモールおよびウェリントン事務所で共有され、徹底的な見直しとフィードバックが行われました。この分析は、2027 年 6 月の現行協定終了後のラファエックへの資金援助継続に関する MFAT の決定を導くための重要な参考資料となることを意図しています。

シームレスな移行を確実にするため、CITL のチームメンバーと、カントリー・ディレクター率いるプロジェクト管理チームからなる専門タスクフォースが結成されました。この一環として、CITL は、プロジェクトチームと協力して、財務および運営管理に関する包括的なマニュアルの作成と承認に成功しました。これらのガイドラインは、財団の今後の活動の指針となり、強固な管理とコンプライアンスを保証するものです。

さらに、移行の進捗状況を定義し、監視するための詳細な移行計画が策定されました。大幅な前進にもかかわらず、CARE オーストラリアの理事会と CEO からの最終承認はまだ保留中です。プロジェクトは、2025 年半ばまでにこの承認を得ることを楽観視しており、これによりラファエック財団は 2025 年最終四半期までに東ティモールの法務省と財務省への法的登録を完了する予定です。

配布先学校地図

2024年度、ラファエック・プロジェクトの配布チームは、全国で1,769校の幼稚園および小学校をカバーしました。これには、487の幼稚園と1,180の小学校、そしてユニセフとアローラ財団が設立した102の地域密着型幼稚園が含まれています。プロジェクトが支援した学校の総数は1,769校ですが、ここに掲載した地図は、1,667校の位置のみを表示しています。この不一致はパートナーであるユニセフ／アローラがこれらの学校への配布を担当した幼稚園のGPS座標情報を収集できなかったためです。今後数ヶ月のうちに、ユニセフとアローラ財団からこれらの学校のGPS座標を収集し、地図に追加する予定です。



横断的課題

ジェンダー平等、児童保護を含む、性的嫌がらせ、搾取、虐待の防止

ジェンダー平等と社会的包摂は、「ラファエック・キーク」、「ラファエック・プリマ」、「ラファエック・バ・マノリン」、「ラファエック・コミュニティ」、そして私たちのソーシャルメディア・プラットフォームのコンテンツのデザインと開発における中心的なテーマです。プロジェクトのコンテンツ・マップは、ジェンダー平等とインクルーシブ教育を特に強調しており、CITLのジェンダー・プログラム品質(GPQ)チームからの定期的な相談とサポートを受けています。事業のジェンダー・フォーカルポイントは、制作・出版マネージャーとGPQチームとともに、CARE東ティモール事務所とCAREオーストラリアのジェンダー・インパクト戦略とインクルージョンポリシーに沿ったトピックについて、話し合いを行い、最初のコンテンツのブレ

ーンストーミング・セッションと内部レビューの段階で、さらなる提案とフィードバックを提供しました。これにより、ラファエックの内容が CITL のジェンダー戦略と密接に整合することが保証されました。

さらに本事業では、ジェンダー平等と社会的包摂について、モニタリング、評価、学習の枠組みとデータ収集ツールの中に、分野横断的な問題として組み込んでいます。このアプローチ方法により、掲載内容とそれによってもたらされる効果が一貫して評価され、これらの重要な問題に対する取組が保証されるのです。

また、通常の活動に加えてプロジェクトのジェンダーとアドボカシーの担当部署は、教育省のジェンダー・チームのリーダーシップの下、他の開発パートナーとともに、教育省のジェンダー作業部会の会議に積極的に参加しています。このチームは四半期ごとに会議を開き、ジェンダー平等、いじめへの対応、学校での暴力対策に関するイニシアチブの進捗状況を話し合うとともに、現場レベルで経験する課題に対処するための最善の代替アプローチを提案しています。これらの議論は、児童間の事件や、学校関係者による児童への非行も含む課題に対処するための仕組みやアプローチに焦点を当てています。

ジェンダー作業部会は、第1サイクルと第2サイクルの教育プロセスにおいて、男女の平等な参加を確保するためのガイドラインとマニュアルの作成を支援するために設立されました。さらに、東ティモールの児童保護政策や、教育省のジェンダーに基づく暴力に関する国家行動計画にも沿ったものとなっています。この作業部会を設置した主な理由は、法律と関連する教育政策にジェンダーの側面を統合することであり、2030年までに東ティモールをジェンダーの問題を公平に扱い、女性と女子の権利を大切にし、尊厳のある社会にするという教育省の目標に取り組むためです。

保護と児童保護に関しては、「ラファエック」とソーシャルメディア・プラットフォームが、CITL の保護、説明責任、報告メカニズムに関するメッセージを広めるチャネルとなっています。全てのラファエックの誌面に CITL のホットライン番号を記載しており、簡単にアクセスして相談できるよう情報を提供しています。「ラファエック」の全国的な広がりと、現場スタッフが児童、教師、コミュニティ、青少年と一貫して接触して考えると、効果的な報告システムを構築することは最優先事項です。

プロジェクト報告の仕組みは、MFAT、政府機関、パートナー、受益者といった主要な利害関係者からの苦情や勧告を把握し、それに対応し、対処するよう設計されています。特に、同国で最も恵まれない地域に住む、弱い立場にある女性と女子に重点を置いています。このシステムは、すべての懸念される問題に対して迅速かつ適切な解決を保証し、安全で協力的な環境を整備しています。

関連性

学習雑誌「ラファエック」の開発は、教育省の就学前教育や小学校のカリキュラムと密接に連携しています。この包括的な連携には、テトゥン語とポルトガル語による読み書きと計算、また数学や自然科学、社会科学、芸術、文化といった主要科目が含まれます。児童と教師向けラファエックの内容は、教員の作業部会によって検討されています。このグループは、文部科学省の監察官、CARE、MFAT、文部科学省の技術作業部会のメンバーに専門的に選抜された8人の教員で構成されています。ラファエックが印刷されて学校に配布される前に、これらの外部諮問委員が最終承認を行います。

今年度、ラファエックチームは、2025年第1版、2024年第2版、2024年第3版の3つの作業部会ワークショップを開催しました。検討メンバーには、就学前教育および小学校の技術代表者、国家カリキュラムの専門家、教員養成機関（ENFORDEPE）、パートナーシップ・協力部門、大臣室、メディア・コミュニケーション代表者、教育リカレント部門、MFAT、ラファエック・プロジェクト管理チームが含まれます。その目的は、これらの重要な学習教材や資料の内容が、プロジェクトの品質基準に準拠し、教育省の要求や国家カリキュラムのガイドラインに合致し、東ティモールの教育状況に関連したものであることを確認することです。

これらのラファエックの学習教材は、東ティモールの児童、教師、そしてより広いコミュニティの間で広く認知され、非常に高い評価を得ています。軽い文章、魅力的でカラフルなイラスト、児童を惹きつけるデザインが特徴で、読み、数えなど学習に取組みやすくなっています。これらの教材は、兄姉や保護者、家族の協力を得て、教室や家庭で活用されています。

今年度を通して、プロジェクトチームは、教育大臣、教育省技術ワーキンググループの主要メンバー、駐東ティモールニュージーランド大使やプログラム開発コーディネーターを含むMFATと協力し、児童、教師、コミュニティへのラファエックの配布、児童の取組、学校レベルでのラファエックの活用状況を評価すべく、集団での学校訪問を実施しました。定期的なモニタリングの結果、「回答した児童の97%が学校や家庭で「ラファエック」を利用している」ことが示されました。また、プロジェクトの中間評価では、「ほぼすべての教師と児童が教室でラファエックを利用しており、78%が家庭でも読んでいる」ことが明らかになりました。

これらの調査結果は、ラファエックの教材が子どもたちの読解力強化にプラスの効果をもたらしていることを示しています。また、教師にとって、授業計画をサポートして効果的に理解し、ガイダンスに沿って授業に取り入れるための貴重な参考資料となっていることを表しています。

「ラファエック」は、東ティモールの教育分野における政府の優先事項を大幅にサポートする貴重な補助教材です。質の高い教材を提供することで、「ラファエック」は児童、教師、そしてコミュニティ住民たちの学習体験を向上させています。また、幼児教育の重要性についての認識を高める上で重要な役割も果たしており、両親や保護者が、就学前や小学校入学前の準備として、幼い子どもたちをサポートするための役割も担っています。

効率性

東ティモールのニュージーランド外務省とのプロジェクト無償資金協力協定（GFA）に基づき、今年度の総予算配分はプロジェクトの年間作業計画に沿って 149 万 997 ドルとなりました。本事業は、2024 年に定められたすべての活動に対して割り当てられた予算の 100%を費やしました。また透明性と説明責任の確保のため、支出カテゴリーを詳細に記したアウトプット・ベースの財務報告書を提供します。

本事業は、国、自治体、行政ポスト、学校の各レベルで、教育省との緊密な協力の下、年間作業計画に記載されたすべての活動を効果的に実施してきました。この連携により、今年の 1 学期、2 学期、3 学期に、児童、教師、コミュニティに「ラファエック」を配布することが叶いました。

公共交通機関、電気、国営テレビ、その他の通信手段を利用できないような非常に遠隔地にある学校の児童、教師、コミュニティにラファエックを確実に届けるため、今年は例外的な手段を講じました。具体的には、実施チームとコミュニケーションチームが学校訪問を計画し、地元の馬を活用して「ラファエック」を運搬し、徒步で 7 時間かけ各校に配布しました。他の教育開発パートナーや文部省の視察がほとんどないこれらの児童にとって、学習雑誌「ラファエック」は多くの場合唯一の学習教材となります。児童と教師たちは、プロジェクトチームの努力と受け取ったラファエックに、熱意と感謝の意を示しました。

制作・出版チームは、2025 年 1 月版と 2024 年 2・3 月版のコンテンツ開発プロセスを完了しました。また、一貫した外部諮問委員会のレビューと教員ワーキンググループのワークショップを組織し、年間制作活動全体を最終決定し、今年度の部門計画全体の優先事項が達成されるようにしました。

モニタリングチームは、全国の各プロジェクトの対象者へのインタビューやデータ収集を含む定期的な活動を行いました。こうした努力は、今年のプロジェクト年次報告書全体に大きく貢献しました。収集された調査結果やデータは、同誌の品質向上やプロジェクトの戦略的的意思決定に活用されます。

ラファエック・プロジェクトの事業開発・マーケティングチームは、東ティモールの既存・新規パートナーとも積極的に関わり、相互のアプローチや協力的な取組について話し合っています。この積極的なアプローチは、事業における将来なパートナーシップ締結の機会につなげることを目的としています。

持続可能性

本事業の持続可能性を確保するため、CAREとプロジェクトチームは教育省（MoE）と積極的に関わり、印刷手段の可能性を模索しています。教育大臣は、ラファエックを持続可能なモデルにすることに強い関心を示しています。私たちの議論の中で、大臣は印刷手段の可能性を検討することを提案し、さらに協力の可能性について議論する会議を提案しました。ラファエックの経営陣と教育省の印刷技術チームは、「ラファエック・コミュニティ」の増刷方法について生産的な対話を行いました。この取組は、年1回の協力になる予定ですが、印刷機の技術的なコスト負担が予想を大幅に上回ることが判明したため、教育大臣および外務貿易省（MFAT）と、追加維持費に対処するためのさらなる話し合いが必要となります。

別の機会に、教育大臣は、将来的にプロジェクトの持続可能性を支援するために財源を割り当てるという教育省の協力について提言しました。しかし、まだ実行可能なステップに具体化されていません。私たちは、将来のリスクを軽減すべく、最大限の注意を払って協力と話し合いを続けなければなりません。

2017年以降、ラファエック事業は持続可能な取組を支援するため、スポンサーシップモデルを導入しています。このモデルは開発パートナーに、ラファエックのソーシャルメディア・プラットフォーム、ビデオ制作、特別版、ラファエックの全国的な配布ネットワークを通じた啓発教材を広める機会を提供し、学習教材が確実にターゲット層に届くようにするものです。ラファエックのビジネスプランモデルは、こうした取組を方向づけるとともに反映しており、プロジェクト全体の事業展開に向けた道筋を示しています。

このスポンサーシップへの取組を通じ、本事業では260万ドルのスポンサーシップ資金を生み出しました。これらの資金を、主要な資金源を補い、将来の運営活動に資源を配分するために活用します。さらには、東ティモールでの事業継続を支援するため、KODA（CAREオーストラリアの投資管理会社）や東ティモールの銀行機関にスポンサー資金を投資し、収入や配当金を得ることに多大な努力を継続してきました。

今年度、本事業は、様々な開発パートナー、民間セクター、市民社会組織、東ティモールのCAREと協力し、総額426,834.99米ドルのスポンサーシップを獲得しました。

東ティモールのCAREとプロジェクト管理チームは、ラファエックを独立した財団（ラファエック財団）に移行させるため、様々な努力を続けてきました。こうした取組は、地元の財団が東ティモール政府内のさまざまな資金調達チャネルにアクセスできるようにするとともに、活動実施にあたって現地パートナーへの直接支援を優先する国際的なドナーを新たに呼び込むことを目的としています。

ラファエック持続可能性声明では、MFATおよび教育省との戦略的連携、財務戦略の策定、革新的なスポンサーシップモデルを通じて、ラファエック学習メディアプロジェクトの持続可能性を確保するための力強いアプローチが示されています。一方で、高額な技術コストや教育省か

らの具体的なコミットメントの必要性といった課題もあり、引き続き慎重な対応と協力が求められています。

インパクト

「ラファエック」は、副教材として重要な役割を果たし、事業を通じて教育分野の発展を大きく促進し、子どもたちの学習成果を高め、家庭の社会的・経済的福祉を強化してきました。本事業の教育成果に関する中間報告によると、「**識字能力全般のスコアは、ラファエックを読んだことのある児童や、雑誌に掲載された単語、ゲーム、物語を思い出すことのできる児童と、強く正の相関関係があった**」という。これは、児童がラファエックに積極的に取り組んでいることを示しています。

教員向けの「ラファエック・バ・マリノン」は、教師の授業方法やクラス運営の改善を支援し、授業を計画するための貴重な参考資料となるようデザインされています。中間調査の結果、「**ラファエックは、教師が利用できる最も重要なツールの一つ**」であることが明らかになりました。半数以上の教師が、「**読み解き、テトゥン語、数学の教え方を学ぶためにラファエックを利用している**」と回答しています。

「ラファエック・コミュニティ」は、子どもの権利、育児、ジェンダー平等、健康、経済開発、環境ケア、地域統治への参加などに関して必要となる情報を保護者に提供しています。中間調査の結果、"子ども向けの読み物がある家庭の 89%がラファエックだけに頼っている"ことがわかりました。

こうした調査結果から浮かび上がった肯定的な側面は、ラファエックが親子を結びつけるサポートをしているということです。定期的な年次モニタリングの結果、「**インタビューを受けた親の 87.93%がラファエックを読むと答え、77.59%は配偶者がラファエックを読む**」と回答しています。

さらに、「**「ラファエック・コミュニティ」を受け取ったと報告した世帯は、受け取っていない世帯に比べて貯蓄をしている割合が 13%高かった**」という結果が出ています。ラファエックを活用して健康や衛生について学んだことは、養育者の母子保健に関する知識向上に強く関連していました。さらに、衛生情報を得るためにラファエックを使用したと回答した養育者は、使用しなかった養育者に比べて、追加で 2.6 件の母子保健実践項目を特定できる可能性が高いと予測されました。

また、「ラファエック・コミュニティ」は、男女平等に関する重要なメッセージを伝え、家庭内の意思決定や家庭内暴力に対する態度における男女の役割についても影響を与えています。中間調査では、「**男女平等に関する信念を支持する発言が男女双方から多く見られた**」ことが明らかになりました。さらに、「**男性も家事や育児に平等に参加すべきであり、女性も家庭外で働き、家庭内の意思決定に平等に参加できる**」という認識が広く共有されていることも確認されました。」

戦略的・経営的課題

本事業の戦略的課題のひとつは、ラファエックの独立財団への移行です。過去2年間、CAREとプロジェクトチームは、CITLの法務チームと緊密に協力し、このプロセスを進めてきました。この努力の結果、現地財団の規約を作成し、理事会理事とリスク委員会メンバーを選出し、CAREオーストラリアに提出して、審査と承認を得ることができました。しかし、CAREオーストラリアの管理体制に大きな変更があったことから、承認手続きに遅れが生じています。このような状況下、2025年半ばまでにはCAREオーストラリアの理事会およびエグゼクティブ・チームの承認を得られる見込みです。これにより、2025年9月までに東ティモール法務省と財務省への法的登録を進める予定となっています。

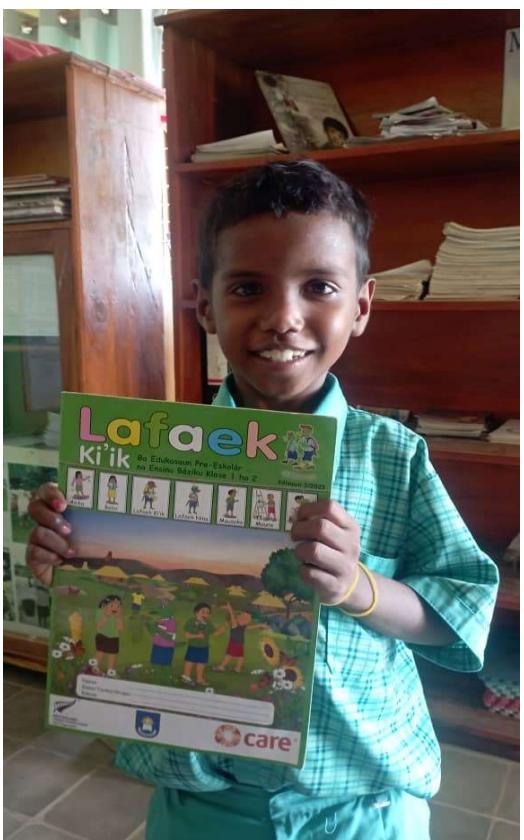
2024年1月から4月にかけての雨期には、道路の寸断、土砂崩れ、橋の崩壊、強い川の流れなど大きな混乱を引き起こし、学校への配布に支障をきたしました。その結果、一部の児童、教師、コミュニティはラファエックを予定通りに受け取ることができませんでした。チームは、学校関係者や村のリーダーと緊密に協力して対応していたものの、激しい雨により、学校や地元のリーダーからの支援は遅れが生じました。そのため、学校関係者や教師と連携し、自然災害が発生した中心地点から大人の児童がラファエックを回収するなどの代替策を提供しました。

地域によっては、公共交通機関を使って学校まで行くことができず、数キロの道のりを歩かなければならぬプロジェクト担当者にとって、大きな困難となっています。この状況は、プロジェクト担当者の安全を脅かしています。こうした問題に対処するため、プロジェクト担当者が学校に「ラファエック」を運搬することを助ける地域の馬を活用しました。これにより、児童や教師にラファエックを届けることができ、読み聞かせ会を企画し、プロジェクト担当者が安全に帰宅できるようになっています。

付録B：受益者ストーリー

受益者ストーリー「ラファエック・キーク」

ラファエックとともに歩む学習の旅



エディガル・ダ・コスタさんがラファエック MEAL チームのインタビューを受け、彼の読書能力向上への雑誌の貢献について話した。

私の名前はエディガル・ダ・コスタ・カルセレス、EBF1.2 マヌル校の小学2年生です。毎学期ラファエックが届くのを心待ちにしています。この雑誌を家に持ち帰り、兄弟と読み書き、数を数える練習をしています。この雑誌は、私たちが学習を続けていくのに欠かせない情報源となり、学ぶことを楽しく魅力的な体験に変えてくれています。

2023年3月号が届いたときに、私が最も興味を持ったのは "時間について学ぼう" という記事でした。この記事は、短い針が「時」を、2本の長い針が「分」と「秒」を示すと紹介しており、私に時間の読み方を教えてくれました。このように時間について学ぶことは楽しく、とても勉強になりました。

ラファエックの雑誌を読むと、文字を読んだり、絵を描いたり、文字を認識できるようになるので楽しいです。同号の「言葉の形成」というトピックは、特に役に立ちました。このコーナーでは、様々な物や動物を表す単語を学び、ノートに書く練習をしました。このおかげで、読解力と単語形成能力が大幅に向上し、読解力に自信が持てるようになりました。

ラファエックの雑誌は、私にとって常にインスピレーションの源となっています。読み書き、数字を覚えるだけでなく、創造性や好奇心を広げてくれるのです。毎学期届くラファエックのおかげで、もっと学びたいとやる気が出ます。

受益者ストーリー「ラファエック・プリマ」

地域の素材や廃棄物を創造的な学習活動に変える

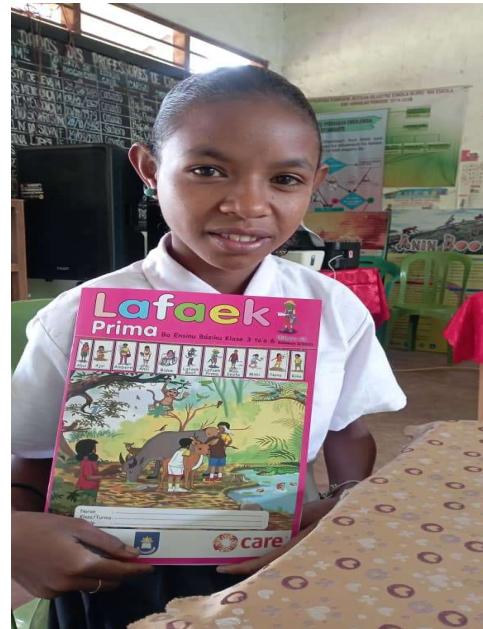
私の名前はシルヴィア・ソアレス・マイア、アイレウ自治体のホホラウ村に住んでいます。ラファエックは、学生時代から年3冊受け取っていました。小学1年生と2年生のときは「ラファエック・キーク」を、小学6年生になった今は「ラファエック・プリマ」を読んでいます。

ラファエックの雑誌は、私に様々な、創造的な活動に取り組む意欲を与えてくれました。プラスチック、風船、ビン、ゴム、葉っぱ、その他地元で手に入る身近な材料を使って、太鼓、凧、ボールといったものを、最小限のコストで作る方法を教えてくれ、幼い弟や妹と一緒にこれらを実践してきました。私たちは皆、これらの技術を使うことを楽しんでいます。ラファエックの雑誌に掲載されています作り方は簡単なので、私たちは創造的なプロセスを楽しむことができています。

例えば、風船、ボトル、ゴム、プラスチック、木を用いて太鼓を作る方法を学んだり、プラスチック、棒、糸を使って凧を作り、またプラスチック、紙、輪ゴムを使ってボールを投げてみたり。これらの活動は、材料が地元で手に入り、費用もほとんどかからないので簡単です。私は幼い弟や妹、そして近所の子供たちを集め、ラファエックに掲載されているステップ・バイ・ステップの説明書に基づいて、これらの活動を実践しました。

ラファエックは、廃棄物管理の重要性を強調し、廃棄物を分別して適切に処理することを奨励しています。創造的なプロジェクトに取り組むことで、廃棄物を減らし、有用なおもちゃに変えることができました。これは環境によいだけでなく、リサイクルや素材の再利用を促進することにもつながります。

ラファエックは、私の学問的な学習環境も豊かしてくれました。その魅力的な内容を通して、私は数学、自然科学、社会科学など様々な教科を学びました。このおかげで、掛け算のような数学的概念や、固体、液体、気体の性質のような科学的トピックを理解することができました。社会科学のコーナーでは、ニコラウ・ロバトやフランシスコ・ザビエルといった、歴史上の重要人物についても学ぶことができました。



ラファエック MEAL チームは、廃棄物管理の意義とラファエックの役割について、シルヴィア・ソアレス・マイアさんにインタビューした

受益者ストーリー「ラファエック・バ・マノリン」

ラファエックによる教育改革への教師の視点

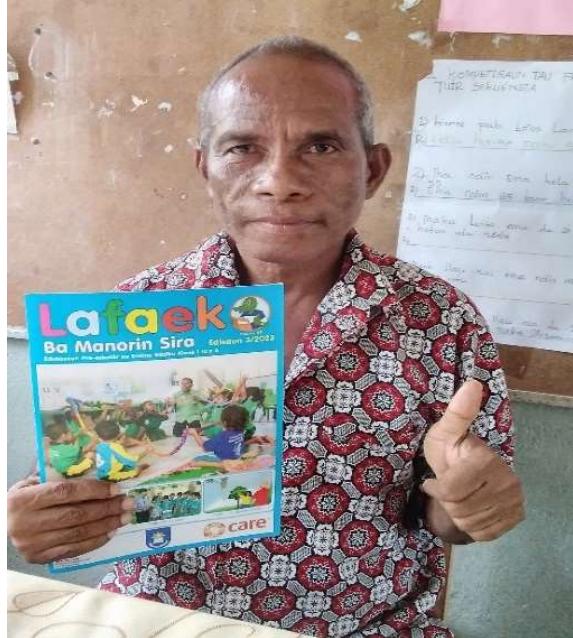
私の名前はジョアン・デ・ジーザスで、リキカにあるの EBF1.2 マウメタ小学校で教師をしています。教育者として、私は教師向けラファエックを受け取って感激しました。この雑誌は、教師として児童たちに最高の教育を提供するための貴重な参考資料となっています。

「ラファエック・バ・マノリン」は、私の指導法を変えました。包括的で魅力的な内容は、児童たちにより効果的に教える手法を示してくれました。例えば、自然科学と数学のセクションは特に有益です。分数、小数、太陽光システムといった複雑なトピックを児童が理解しやすいように、明確な説明と実例を提供してくれています。ラファエックを参考にしながら、児童が最大限の学びが得られるような授業計画を立て、自分の教え方をより効果的なものにすることができています。

ラファエックを受け取った児童たちには、授業で机の上に置くように勧めています。そうすることで、授業中にすぐに参照することができ、授業で扱った内容をしっかりと定着させることができます。この雑誌は、児童が難しい概念を理解し、知識を実践的に応用するために役立つ良い補助教材です。

私は仲間の教師にもラファエックを強く薦めます。この雑誌は、教育プロセスを向上させ、児童たちにとって、学習をより身近で楽しいものにする貴重なツールです。また、教師が質の高い教育を提供できるようサポートし、児童が学習の旅に積極的に参加できるよう促してくれます。

ラファエックは、私たちの教育や学習環境を大きく改善しました。教師としてより効果的な授業を提供する力を与えてくれましたし、児童には学習に必要なリソースを提供してくれたのです。



ラファエック MEAL チームは、学校モニター訪問の際、ジョアン・デ・ジーザス氏にインタビューを行い、ラファエックの利点について洞察を深めた。

受益者ストーリー「リベル・セマティク・バ・マノリン」

簡単にレッスンプランを提供するための良い参考文献

私の名前はドミニゴス・デ・ジェズスで、レテフォホの EBFC1.2 サオ・ミゲル・アルカンジョで教えています。私たちの学校には、年に 3 回、4 種類のラファエックの雑誌が届きます：

1. 「ラファエック・キーク」：就学前および小学校 1、2 年生向け
2. 「ラファエック・プリマ」：小学校 3 年生から 6 年生向け
3. 「ラファエック・バ・マノリン」：幼稚園から小学校の教師向け
4. 「ラファエック・コミュニティ」：保護者向け。子どもたちを通じて保護者らに配布

さらに、年に一度、「リベル・セマティク・バ・マノリン」が届きます。これらの雑誌は、長年にわたって配布されてきたラファエックの様々な関連トピックに関する内容が含まれており、その多くは学校の図書館でのみ入手可能で、非常に貴重なものため、我々が継続的に教授法を向上させるために役立っています。

「リベル・セマティク・バ・マノリン」は、教室での学習環境を念頭においてデザインされた内容で、活動写真やイラストが満載です。これらのリソースは、児童を効果的に指導することを容易にし、指導過程における児童と教室環境の両方を管理するのに役立ちます。

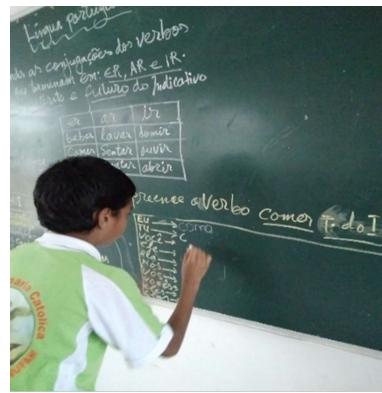
例えば、気体、固体、液体について教えるときには、標準カリキュラムのガイドラインよりも「リベル・セマティク・バ・マノリン」を使っています。視覚的な教材とアクティビティに基づいた説明によって、児童は容易に概念を理解できるようになります。同様に、ポルトガル語の読み書きを教える際にも、規則動詞を中心にこちらの教材を使用しています。わかりやすいイラストと例文によって、児童の理解度が格段に高まるのです。

また「ラファエック・バ・マノリン」の内容が、「ラファエック・プリマ」などの内容と密接に関連しているため、より効率的に学習できるようになりました。児童たちは雑誌を家にも持ち帰って読むことができます。もし児童にとって難しくてわからないことがあれば、いつでも私が相談にのって教えることができます。

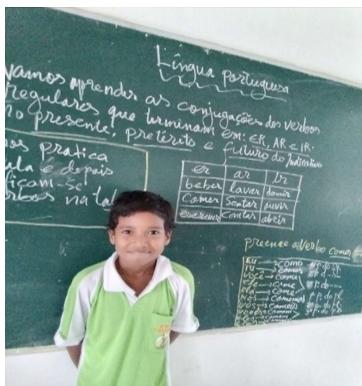
さらに、ラファエックには東ティモール教育大臣からの重要なメッセージが掲載されており、献身的な努力によって質の高い教育を提供しますという教師の重要な役割を強調しています。これらのメッセージは、効果的に職務を遂行するよう私たちの意欲を高めてくれるものです。



ラファエック・プロジェクト MEL チームは、ドミニゴス・デ・ジーザス氏にインタビューを行い、ガイドブックとの関わりについて彼の見解を聞いた。



すべての教員に、受け取ったラファエックを大切に読み続けることをお勧めします。これらは教育者にとっても児童にとっても貴重な資料です。今後も長く他の教師が使えるように、大切に扱ってほしいです。ラファエックチームには、これからも定期的にラファエックとリベル・セマティク・バ・マノリンの配布を続けてほしいと願っています。



キン・フランシスコ・ダ・コスタ：「ポルトガル語を学べることが楽しいです。家に持ち帰った雑誌から多くのことを学んだので、先生に呼ばれて練習問題を解くことが、怖くも恥ずかしくもなくなりました。学校にも雑誌を持ってきて、学習を続けています。」

受益者ストーリー「ラファエック・コミュニティ」

男女共同参画を推進する村のリーダー、「ラファエック・コミュニティ」から学ぶ



ホホラウ村長オルランド・マイア氏に、コミュニティ・マガジンの利用状況や生活にどのように取り入れているかについてのインタビューを行った。

ラファエックチームが雑誌の配布に来た際、私は大喜びしました。特に、家庭での役割と責任、困難な状況での十分な情報に基づいた判断、家庭や村レベルでの男女平等のバランスの確保など、私にとって大切な情報源であり、「ラファエック・コミュニティ」は私の生活に欠かせない参考書となっています。私は村の指導者チームのメンバーとして、「ラファエック・コミュニティ」あら情報を得て、男女平等を積極的に推進しています。

雑誌には科学的な内容も掲載されており、子どもたちは学校や家庭での学習意欲を高めることができるほか、村役場での会議では、男女平等、農業、健康、教育といったトピックについて、同誌に掲載されている貴重な情報を熱心に地域住民と共有しています。農村部に住む私たちに、家族のために栄養価の高い食事を用意するための情報などが提供され、より健康的な習慣を取り入れる意欲を与えてくれています。

特にストーリーやクリエイティブな内容を読むのが楽しいです。創作活動の中で私が特に興味を惹かれたのは、使わなくなったタオルで植木鉢を作ることでした。作業は簡単で楽しく、完成した植木鉢は村の事務所に誇らしげに飾りました。地域の人たちが訪れるたびに、彼らにも植木鉢作りに挑戦するよう勧めています。私はいつも家で子どもたちと雑誌を読み、空き時間に教材として使っています。

「ラファエック・コミュニティ」は、男女平等とコミュニティ全体の発展において私たちをガイドしてきました。同誌は、私たちが新しいやり方を取り入れ、コミュニティの人々と貴重な知識を分かち合うきっかけを与えてくれました。今後も私たちのような家族を支援し、力を与えるために、ラファエックを配布し続けてくれることを強く願っています。

付録 C：オンラインコンテンツ

ラファエックの Facebook と YouTube のリンク情報

「ラファエック・ジャーナリスト」によるインタビュー様子は以下のリンク先から見ることができます。

- セウ・ブリテス社会連帯・インクルージョン副大臣

[https://www.facebook.com/photo/?fbid=929490245889994&set=pcb.929493889222963&_cft_\[0\]=AZWuNHb7BaeVwfQTZ-vBSh3-AECd5Pz5t6A77m6hgRqzT-ulhLp1qsFSB5-oSak_lEAcxXvEoYHBSQQuPYz0WAt93QdQej_2T4hhnPqzD5wBOrLaS8zN_f0YldnnH2ThvKr46xqWZRDy0uawKtT2o9&_tn_=*bH-R](https://www.facebook.com/photo/?fbid=929490245889994&set=pcb.929493889222963&_cft_[0]=AZWuNHb7BaeVwfQTZ-vBSh3-AECd5Pz5t6A77m6hgRqzT-ulhLp1qsFSB5-oSak_lEAcxXvEoYHBSQQuPYz0WAt93QdQej_2T4hhnPqzD5wBOrLaS8zN_f0YldnnH2ThvKr46xqWZRDy0uawKtT2o9&_tn_=*bH-R)

- ヤシンタ・ルジナ・ダス・レグラス氏 (MOFEE (Movimento Feto Foin-Sa'e) Timor-Leste ディレクター)

[https://www.facebook.com/photo/?fbid=837501018422251&set=pcb.837502061755480&_cft_\[0\]=AZW5lYuTqVVAxDnZXB4yZl-AHTphvzfDoMH0aU2YUSqXKg0jlftk8BGi2K3mm4QaaaGpJFwrn-OrQ3AQc6Xv0MnRJ6nnb22cSosenzru641PTb8gZLxp9H_DLo5daFCIBffE2SYq3OTBUlRB6wb83SWx&_tn_=*bH-R](https://www.facebook.com/photo/?fbid=837501018422251&set=pcb.837502061755480&_cft_[0]=AZW5lYuTqVVAxDnZXB4yZl-AHTphvzfDoMH0aU2YUSqXKg0jlftk8BGi2K3mm4QaaaGpJFwrn-OrQ3AQc6Xv0MnRJ6nnb22cSosenzru641PTb8gZLxp9H_DLo5daFCIBffE2SYq3OTBUlRB6wb83SWx&_tn_=*bH-R)

- ヴィジリオ・ド・カルモ氏 (東ティモールの高名な枢機卿)

[https://www.facebook.com/photo/?fbid=833051922200494&set=pcb.833053202200366&_cft_\[0\]=AZXHOpD8oTsZxo4RdkRmmNQodX4M4r9DR-lmwiAvSoAxPIRh0jekCH3sjZqTSisg9ryHokxevqW7J_vhE3aZ-zzqfzuiFXQR5nhv77SB-O1SW9FCFmyaKTSNkVj1hfPfhSfz28v4g0yx4Ab0dz8P0ahj&_tn_=*bH-R](https://www.facebook.com/photo/?fbid=833051922200494&set=pcb.833053202200366&_cft_[0]=AZXHOpD8oTsZxo4RdkRmmNQodX4M4r9DR-lmwiAvSoAxPIRh0jekCH3sjZqTSisg9ryHokxevqW7J_vhE3aZ-zzqfzuiFXQR5nhv77SB-O1SW9FCFmyaKTSNkVj1hfPfhSfz28v4g0yx4Ab0dz8P0ahj&_tn_=*bH-R)

- ディシア・サルメント・ベロ氏 (気候変動活動家)

[https://www.facebook.com/photo/?fbid=910236471148705&set=pcb.910239314481754&_cft_\[0\]=AZVTObv4amjP72He1Axr3hIH4znuO1wM5G4XKteNmae041nvz_wUmghnnV8LH4T0uGwMNxsZ0Kz6knf8lpPKgxDGBj9RctKkiXE BYDgvSrq_ABSYqQS2CgnSKecAZ0CBrbW4fct3CaCxJZvd2j9Fpq4W&_tn_=*bH-R](https://www.facebook.com/photo/?fbid=910236471148705&set=pcb.910239314481754&_cft_[0]=AZVTObv4amjP72He1Axr3hIH4znuO1wM5G4XKteNmae041nvz_wUmghnnV8LH4T0uGwMNxsZ0Kz6knf8lpPKgxDGBj9RctKkiXE BYDgvSrq_ABSYqQS2CgnSKecAZ0CBrbW4fct3CaCxJZvd2j9Fpq4W&_tn_=*bH-R)

- ヘレン・ジェーン・トゥンナ 駐東ティモールニュージーランド大使

[https://www.facebook.com/photo/?fbid=941039128068439&set=pcb.941041001401585&_cft_\[0\]=AZVCqNA-cpyFOZKTj3G-4WZIU1WA-VrcxYhU0ezmpJHM36mmTGMuet19pXm6T1df41Pwh7YDNO_uWywnKnBualziGH-tCr1XfBH9y6J4tFODqaQK1Or2mWNY4CXb9umuVT6tTizOKhZNoXsTh38rc2Sr&_tn_=*bH-R](https://www.facebook.com/photo/?fbid=941039128068439&set=pcb.941041001401585&_cft_[0]=AZVCqNA-cpyFOZKTj3G-4WZIU1WA-VrcxYhU0ezmpJHM36mmTGMuet19pXm6T1df41Pwh7YDNO_uWywnKnBualziGH-tCr1XfBH9y6J4tFODqaQK1Or2mWNY4CXb9umuVT6tTizOKhZNoXsTh38rc2Sr&_tn_=*bH-R)

- マリア・フェルナンダ・レイ国會議長

<https://www.youtube.com/watch?v=O-FM7LZhG9Q>

- ドゥルセ・ソアレス・デ・ジエスス教育大臣

- <https://www.youtube.com/watch?v=jpLLxVE-wK0>

以上